2023（令和5）年度

千葉県NIE実践報告書

（*Newspaper in Education*＝教育に新聞を）

我孫子市立湖北小学校
市川市立鬼高小学校
香取市立佐原小学校
鴨川市立天津小湊小学校
白井市立白井第一小学校
匝瑳市立豊栄小学校
袖ケ浦市立中川小学校
千葉市立磯辺第三小学校
船橋市立芝山東小学校
八千代市立大和田西小学校
横芝光町立日吉小学校
御宿町立御宿中学校
香取市立新島中学校
千葉市立貝塚中学校
松戸市立河原塚中学校
千葉県立土気高等学校

千葉県 NIE 推進協議会

ご　挨　拶

千葉県ＮＩＥ推進協議会会長
松　井　　聰
（千葉大学教育学部教授）

平素より、千葉県NIE推進協議会の活動に対してご理解・ご協力を賜り、ありがとうございます。

昨年7月より、本協議会の会長を仰せつかっています千葉大学の松井聰と申します。2022年度末に公立学校長で退職し、千葉大学教育学部附属教員養成開発センターでミドルリーダー育成等に携わっています。

さて、2023年度のNIE実践報告書が仕上がりました。発刊に至るまでにご尽力いただきました関係の皆様に深く感謝申し上げますとともに、本報告書を手に取った皆さまにとって「新たな気づき」や「他者への理解」につながるものとなることを祈念しつつお届けします。

2023年度は、コロナ禍からの脱却の年となりました。「５類感染症」の扱いに移行したことを受けて、これまでの生活が少しずつ戻って参りました。これにより、学校現場のNIEの活動も緩和の方向となってきました。

今回の報告書には、小学校の実践１１件、中学校の実践４件、高等学校の実践1件を掲載しています。小学校での実践は、全学年・全校体制で取り組んでいるものが多く、それぞれの学校の管理職の先生方のご理解に深く敬意を表したいと思います。「親しむ」がキーワードとなり、久しぶりに本格的な活動ができるようになってきた学校の姿と重なり合うものがあります。実践は導入段階のものが多く、成果については「新聞を身近に感じられるようになった」や「興味を持てるようになった」など、今後の取組に向けての動機付けとなるものが多くなっています。「活用能力が高まった」や「新聞記者さんの想いを受け止められた」などの「思考力・判断力・表現力」に結びついてくような成果も見られました。中学校・高校の実践では、「主体的・対話的で深い学び」に力点を置き、「関心を持つこと」から「読解力や思考力を高める活動につながった」という成果が見られました。一方、課題として見えてきた点は、小学校では「記事の精選」「職員の負担」「苦手な児童への対応」、中学校・高校では「教科の差」「情報量の多さへの対応」などです。新聞には、社会性を育むための情報が満載されています。発達段階に応じた活用の仕方の好事例を提示していけると、本報告書の質が向上していくとともに、協議会全体の広がりや教育効果の拡大につながっていくものと推察します。

2024年になり、能登半島地震によって普通の生活が奪われた方々がたくさん出て、未だに地元に戻れない状態が続いています。世界情勢に目を転じると、ロシアのウクライナ侵攻が長期化し、中東での戦禍が人々の人間らしく生きる権利を侵害し続けています。それらの事件・事象を記録・提供し続けている新聞は、間違いなく学校と社会をつなぐ大切なツールの一つです。

今後も、NIEに集う教育関係者や新聞関係者が連携協力して「新聞活用の極意」を積み上げていけますよう、関係者一同で協働して参りたいと思っています。

目　　次

小学校

我孫子市立湖北小学校 …… 1
市川市立鬼高小学校 …… 4
香取市立佐原小学校 …… 6
鴨川市立天津小湊小学校 …… 11
白井市立白井第一小学校 …… 14
匝瑳市立豊栄小学校 …… 18
袖ケ浦市立中川小学校 …… 21
千葉市立磯辺第三小学校 …… 23
船橋市立芝山東小学校 …… 26
八千代市立大和田西小学校 …… 28
横芝光町立日吉小学校 …… 31

中学校

御宿町立御宿中学校 …… 33
香取市立新島中学校 …… 35
千葉市立貝塚中学校 …… 40
松戸市立河原塚中学校 …… 44

高等学校

千葉県立土気高等学校 …… 46

ＮＩＥを通して「読むこと」の力を育む

我孫子市立湖北小学校　　園　陽平

１　はじめに

本校では令和4年度より、校内研究として国語科に焦点を当て、研究主題を『「読むこと」において考えを形成できる児童の育成～感想や書く活動を通して～』と設定し、研究を進めた。 そして今年度、ＮＩＥ教育の実践指定を受け、ＮＩＥを活用して、本校の「読むこと」の力をさらに高められるのではないかと考え、実践を進めた。

実態として、新聞をとっている家庭が少ない中で、今年度はまず新聞に慣れ親しむことを目標として取り組んだ。

２　実践状況

①ＮＩＥタイム（全学年）

毎週金曜日の朝自習の時間を「ＮＩＥタイム」と設定し、全校で新聞を読む活動を行った。 低学年・中学年・高学年それぞれで教員が気になった記事をスクラップし、学年の実態に応じたワークシートを作成した。

低学年では、記事の感想を書くだけでなく、写真から読み取ったことも書くようにした。 国語科の「すずめのくらし（教育出版・1年上）」で写真から読み取る学習をしたことを、ＮＩＥの活動につなげることで、身に付けた力を定着させることができた。

中学年では、記事を読み、関連する言葉を集めたり、感想を書いたりする活動を行った。

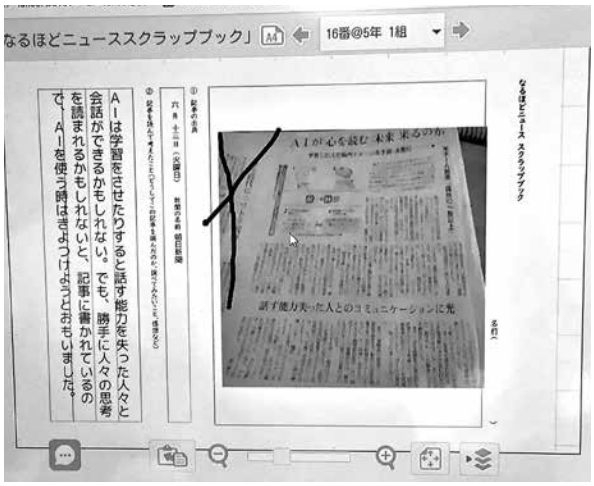
高学年では、記事を読み、自分の体験や経験をもとに考えや感想を120字程度で書けるようにした。

②なるほどニュースを紹介しよう（第5学年）

国語科で、様々な新聞記事を読み比べ、心に残ったなるほどニュースを紹介する、という言語活動を設定した。

児童は一般紙や小学生新聞から「なるほど」と思った新聞記事を選び、切り抜くのではなく、一人一台端末を活用してデジタルスクラップブックを作成した。

そして、デジタルスクラップブックの中から一番伝えたい記事について、自分の考えを理由と共にまとめ、班で紹介しあうことができた。



③なぞとき名たんてい「新聞マスター」になろう！

（特別支援学級（情緒）第2学年）

国語科で、新聞を読み取って、拡大･ピンボケした写真の正体を調べるという活動を通して、新聞に親しませることをきっかけとすると共に、読み取った内容を伝える活動を行った。

探偵見習いになって、認定証獲得という目的意識をもち楽しんで取り組めるようにした。 毎回同様の学習の流れで見通しがもてるようにし、新聞記事の長さを徐々に長くステップアップさせた。

お互いに調べたことを伝え合う活動を取り入れ、自立活動のコミュニケーションの内容も目標の一つに据えて、指導・支援した。

文の読み取りの際、自力で必要な情報を見つける力と、前向きに取り組む姿勢が向上した。

３　成果と課題

成果

○学年の実態に応じて新聞から文字探しゲーム（国名、カタカナ、数字など）を行うことで、新聞を読むハードルを下げて、慣れ親しむことができた。

○国語科で学習したことをＮＩＥタイムにつなげて１年間継続したことで、身に付けた力を定着させることができた。

課題

●児童にとって、もっと新聞を身近に感じられるように、小学生新聞などの新聞をいつでも気軽に手に取って読める「新聞コーナー」を設置するなどの環境整備をする必要性がある。

初めてのＮＩＥ～新聞に親しむ～

市川市立鬼高小学校　　吉田　美紗希

１　はじめに

本校は、ＮＩＥ教育推進指定校２年目である。 今年度は1年生が新聞に親しめるように取り組んだ実践を報告する。

２　実践状況

①平仮名探しゲーム

平仮名を全て学習した後、新聞を1面ずつ配り、30秒で指示された平仮名をいくつ見つけられるか、ゲームを行った。 どの文にも入っているであろう「し」「た」「ま」などの平仮名を選び、ゲームをした。一つも見つけられない児童はいなく、みんなが30秒間真剣に文字を探すことができた。

②名前探し

新聞を1面ずつ配り、自分の下の名前を探す活動を行った。 見つけられた児童は、苗字も探した。最後に、見つけられた文字を大型提示装置に映し、発表した。

③写真に見出しをつける

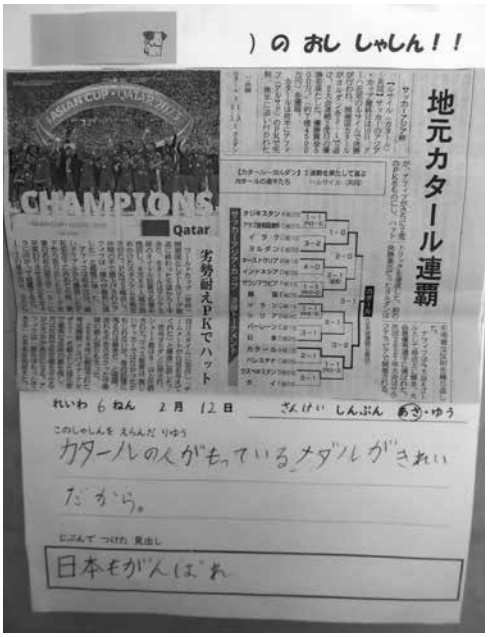
児童の興味を引くような写真（プールで水遊びをしている写真、祭りで神輿を担いでいる写真）を選び、どのような写真か、どんな音や声が聞こえてきそうかを見つけさせた。 見つけたことを生かして、写真に見出しをつける活動を行った。

④片仮名の言葉探し

新聞を1面ずつ配り、片仮名の言葉探しを行った。 平仮名探しゲームとは違って、記事を読まないと見つけられないので、集中して読むことができた。 見つけた言葉を発表すると、「こっちの新聞にもあった。」「そんな言葉あるんだ。」「それって片仮名なんだね。」などと反応していた。

⑤推し写真スピーチ

新聞の中からお気に入りの写真1枚を選び、紙に貼り、選んだ理由を書いた。 さらに、教師や保護者に記事を読んでもらい、その写真に見出しをつけ、朝のスピーチで発表した。



⑥漢字見つけ

新聞を1面ずつ配り、 1年生で習った漢字を見つけるゲームを行った。

３　成果と課題

○1年生の児童でも、少しずつ新聞に親しむことができた。

○新聞には、いろいろな大きさの文字があること、いろいろな写真が載っていることに気付くことができた。

○ゲームを行うことで、楽しみながらＮＩＥ活動に取り組むことができた。

○推し写真スピーチを行うことで、社会で起きていること、話題になっていることに目を向けることができた。

○写真に見出しをつけることに慣れ、短い言葉で、伝えたいことをまとめる力がついてきた。 作文の題名をつける時に工夫が見られた。

●学年や委員会など、他の先生方とも協力して取り組むことも必要である。

●年間計画の中で、どこで新聞を取り入れるかを考え、無理なく取り組めるようにする。

●教科の中で、新聞を活用できないかを考え、計画を立てる。

４　まとめ

１年生が無理のない範囲で、楽しく取り組めるよう、ＮＩＥを実践してきた。 1年生が新聞を活用するには難しいところもあるが、できる範囲で行うことで、児童が興味をもったり、いろいろな力をつけたりできることが分かった。

新聞に親しもう

～「新聞を活用した授業づくり」～

香取市立佐原小学校　　石井　英理子

１　はじめに

佐原小学校は、令和４年度からＮＩＥ実践校としての指定を受け、本年度が２年目の取組となる。

国語科では、「情報を関連付けて思考を深める子どもの育成」を目指し、日々の授業に取り組んでいる。 本年度は複数学年で授業実践をした。

２　実践及び結果

（１）朝のチャレンジタイム

まず、火曜日の朝のチャレンジタイムの取組である。 毎朝１０分の活動は、月曜日と木曜日は読書、火曜日が読解力問題、水曜日は計算テスト、金曜日は漢字テストである。 これを1年から６年まで全校で継続して進めている。

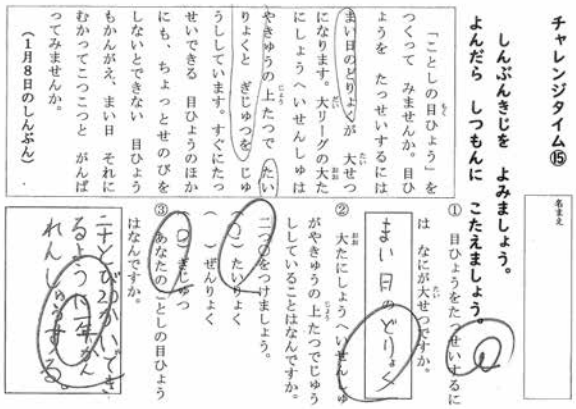
火曜日の読解問題では、中学年以上が「天声子ども語」を一読し、学年に応じた決められた文字数で、「読んでわかったことや不思議に思ったこと、新たな考えや意見」などを書いている。

旬のコラムに書かれた情報と既有の知識や経験を関連付けて考えを形成するのである。 これを継続していることにより、初読のテキストをある一定スピードで読み取る力が付いている。

低学年は、そのままの記事を読み取るには難解であるため、教師が文字を起こし、児童の読みやすいフォントのサイズで与えている。 プリント上部には、『天声子ども語』から文章を抜き出して記載し、下部には毎時間３～４題の問題を記載した。

平仮名が定着してきた7月頃から実施し、２～３文程度の文章から単語や新聞記事の日付けを抜き出す問題から始めた。 徐々に文章量を増やすとともに、問題の形式を変えていった。 最終的には、自分の考えを述べる問題も設定した。

始めは文章を読むことが困難な児童もいたため、教師が読み聞かせたり、１問ずつ学級全体で取り組んだりしながら行った。 定期的に実施することで、初めて読む文章に戸惑うことなく、素早く読むことができるようになった児童が多く見られた。 また、問題の形式を少しずつ変えていったことで、このプリント以外の様々な問題に自力で取り組める児童が増えた。 さらに、自分の考えを記載する問題も少しずつ取り入れたことで、短文ではあるが、自分の考えを記述できるようになった児童も増えた。


チャレンジタイム⑮

しんぶんきじを　よみましょう。
よんだら　しつもんに　こたえましょう。

「ことしの目ひょう」をつくって　みませんか。目ひょうを　たっせいするには　まい日のどりょくが　大せつになります。大リーグの大たにしょうへいせんしゅはやきゅうの上たつで（たい）りょくと　ぎじゅつを　じゅうししています。すぐにたっせいできる　目ひょうのほかにも、ちょっとせのびをしないとできない　目ひょうもかんがえ、まい日　それにむかってこつこつと　がんばってみませんか。
（1月8日のしんぶん）

① 目ひょうをたっせいするには　なにが大せつですか。
よい日のどりょく

② 大たにしょうへいせんしゅがやきゅうの上たつでじゅうしていることはなんですか。
二つのをつけましょう。
（○）たいりょく
（○）ぜんりょく

③ ことしの目ひょうはなんですか。
二十とびわかいてきるようにれんしゅうする。

≪１年生の読解問題≫

2/6 チャレンジタイム

新聞記じを　読みましょう。読んだらしつもんに　答えましょう。

小さなヘリコプター

遠い遠い火星で、地きゅうからはこばれた小さなヘリコプターがとんだのを、みなさんおぼえているでしょうか。

アメリカ航空宇宙局（ナサ）のたんさきにつまれ、三年前の二〇二一年二月に火星につきました。無人で、長さ一・二メートルのつばさをまわしてとびます。

火星は地きゅうとくらべてもののおもさがやく三分の一にかるくなります。けれども大気も地きゅうの一パーセントほどしかありません。つばさでうき上がる力も小さくなります。じゅんびをかさねて、二か月後にとび上がることにせいこうしました。地きゅういがいの星で、はじめてとんだヘリコプターになりました。

（二月二日の新聞）

① 小さなヘリコプターが火星についたのは、いつですか。

二〇二一年　二月

② 火星は、どんな星ですか。

地きゅうとくらべてもののおもさがやく（三分の一）にかるくなり、大気も地きゅうの（一パーセント）ほどしかありません。つばさでうき上がる力も（小さく）なります。

③ この新聞記じにだいめいをつけてみましょう。文のはじめの［　］に書きましょう。

④ いつの　新聞ですか。

二月　二日

≪２年生の読解問題≫

（２）授業での取組

≪4年≫

国語科　『新聞を作ろう』

新聞の割り付けの仕方を工夫するために、資料を効果的に使いながら紙面構成をしていく学習である。

導入で、新聞の特徴を捉えるために実際の子ども新聞から記事を確認する活動を取り入れた。 どんな記事が載っているのかを全体で確認した。 新聞を目にすることはあるが、初めて新聞記事の中身を読む児童が多くいた。 新聞の読み方、開き方から確認をした。 最初は、文字の多さに読むことを躊躇する児童もいたが、興味のある記事を見付けると、だんだん読めるようになった。

発行日が同じで違う発行元の新聞を手に取ったペアは、記事の内容が似ていることに気付いたり、『天声子ども語』の読解問題の内容も新聞記事であり、コラムの1つであることに気付いた児童もいたりした。 トップ記事、大見出し、第二の記事、特集やシリーズ記事、図やグラフの使い方など教科書で学習したことを実際の新聞で見付ける活動を行った。

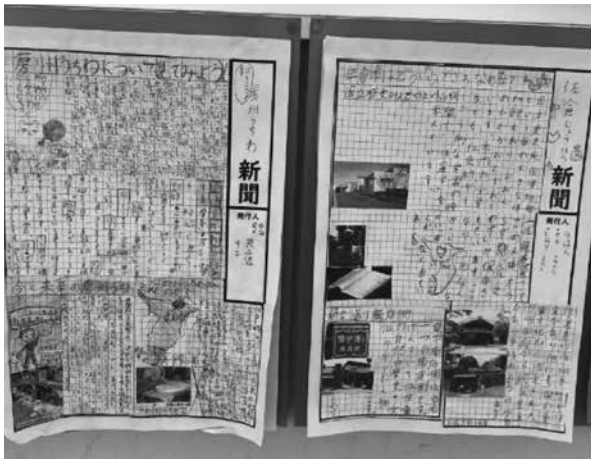
見出しの字体や大きさ、色などで目に入りやすくなる工夫がされていることに気付くことができた。また、子ども新聞と一般紙とでは、使われている言葉のレベルや文量にも違いがあることに気付き、読む相手を意識して書くことが指導できた。

記事の割り付けを考える際にも、実際の新聞を確認して自分の新聞の割り付けを考えていた。 学級の友達に読んでもらうという意識があるので、写真や絵、図、グラフなどを入れることで読みやすいようにしようと考える児童もいた。

社会科

『千葉県の伝統や文化や自然などを生かして』

国語で学習したことを活用し、社会科『千葉県の伝統や文化や自然などを生かして』の学習のまとめでも新聞作りを行った。 このときは、グループで1枚の新聞を作ったので、割り付け後、記事を分担して行った。 実際の新聞も1人ですべてを書くのではなく、分担して行っていることを学習したので、新聞記者になったつもりで、情報収集をしていた。



≪5年≫

国語科　『新聞を読もう』

新聞の仕組みを知り、それをもとに同じできごとを扱った新聞記事を読み比べたり、内容や見出し、写真などについて気付いたことを話し合ったりする学習である。

導入で新聞記事はトップ記事や見出し、リード文や本文といった内容で構成されていることを確認し、実際の新聞を見た。 家庭でも新聞をとっていないという児童もおり、新聞をみる機会があまりない児童も多かった。 その中で、実際に新聞を見ることで、どのように構成されているのかを確かめることができた。

次に実際の新聞を見て、トップ記事や見出し、リード文はどれなのかを見付ける作業をした。 一番伝えたいことが目立つようにされていることや読者が読みやすいように記事の近くに写真や図が配置されていることに気付くことができた。

同じ日の新聞でも、新聞によってトップ記事が違ったり、同じ話題を扱った記事でも違うところがあったりすることに気付き、比較しながら工夫を見つけ出すことができた。

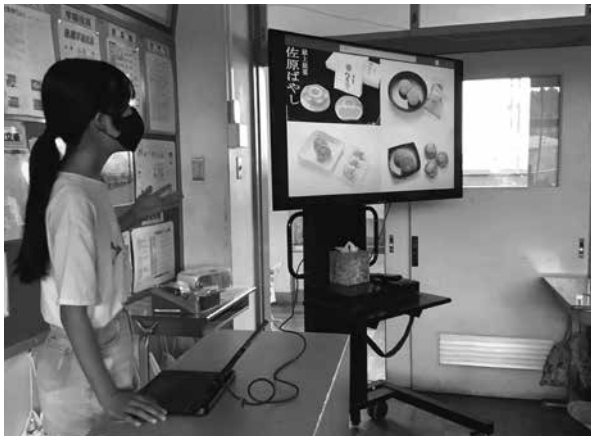
≪6年≫

総合学習『呼びたい、見せたい、盛り上げたい、
佐原　町おこし隊！』

総合学習で「佐原の町おこし」のヒントを、日々の新聞記事から獲得した。その中には、名産品を前面に出して観光客を誘ったり、新たな散策コースを提案したり、中には「合コンプラン」などもあった。人口が減りつつある香取市は、数十年後に消えてしまうかもしれないという情報に、子どもたちは衝撃を受け、もっと地元を知ってもらって産業そのものを活性化させねばという願いが切実なものとなった。

そこで、まずは地域の方に登壇していただき、現状の課題や、これからの展望を伺った。

そこから、自分たちにできる提案を各自が調べ始めた。初めはクラス内で提案の発表会を行い、最終的には、地域のゲストティーチャーを招いて自分たちの提案を聞いていただく単元となった。



最後の発表の場では、それぞれの学級で投票した結果、良かったものを共有した。①地域のイベントを定期的に企画し広める②オリジナルキャラクター（小野川くん・街並みちゃん）を考案し、宣伝する

③地域の行事のカレンダーを作成し、ふるさと納税の返礼品とする④米粉とサツマイモのパンケーキを売り出す⑤アナログなオリジナルノートを観光地に配置する⑥おすすめ観光コースの提案（日帰り＆宿泊）⑦古民家ホテルの地域への還元⑧特産品を生かした外国人向けのパンフレット制作⑨特産品のオリジナルレシピの開発などの提案があった。

観光としての素晴らしさだけでなく、地域に根差した産業おこしが重要であるとの提言が印象的であった。

３　成果と課題

○旬の内容を散りばめた新聞を手に取り、読むことで、目的に応じた読解の力を伸ばすことに有用だった。

○活字離れが叫ばれて久しいが、新聞を毎週目にし、コラムを読んで意見を書いたり、授業で活用したりすることで、長文に対する苦手意識が減ってきた。

○新聞には、テキストだけでなく、図や写真、リードや見出しなど、多くの情報があり、それを取捨選択しながら活用する力が伸びた。

４　おわりに

実際に毎日届く新聞を手にすると、記者や編集者の熱い思いに触れられた。

また、毎日教師も新聞の記事に目を通すよう、管理職が千葉日報の記事をコピーして配付をした。
それを学年部会ごとにファイリングすることも２年間継続した。多忙の中でも、全職員が新聞記事に目を通すことができた。

子どもたちも、授業の他に週に一度、全員が新聞に親しむ時間があったことは、多くの学びがあり、有用であった。

「学校の学び」を「世の中」へとつなぐ

鴨川市立天津小湊小学校　　中村　明博

１　はじめに

本校は、令和４年度からＮＩＥ推進実践校の指定を受け、今年度は２年目の取組となる。

１年目の昨年は、子どもたちが「新聞に慣れ親しむ」ことを目指した。 新聞を自宅でとっていない子どもが多くいたため、「新聞とはどういうものか」に触れさせることを主な活動とした。 学校の一部に新聞コーナーを設置したり、簡単な内容の子ども新聞の記事を読んで見出しを考える活動を全校で取り組んだりして、新聞の構成や特徴、よさについて学んだ。

教師にとっても初めての取組となったので、「どんな新聞記事を、どの単元で、どのように教材化するか」という大きな課題に直面し、試行錯誤した１年となった。

２年目の今年は、校内で組織したＮＩＥ推進委員会からいくつかの授業パターン案を提示した。 その上で、学級担任が子どもたちの実態に合うような授業パターンを精選・加工し、授業のねらいにふさわしいものとなるよう、記事を教材化していった。

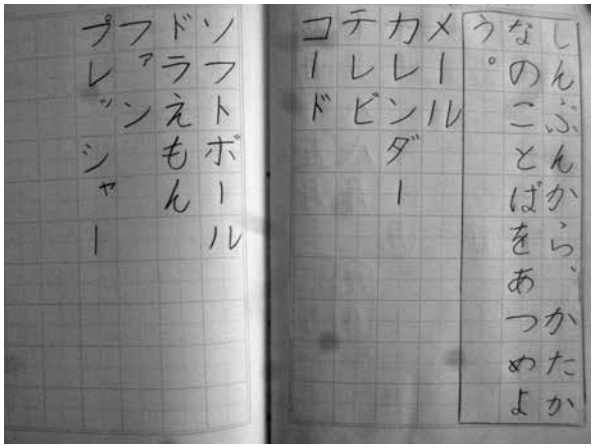
２　実践状況

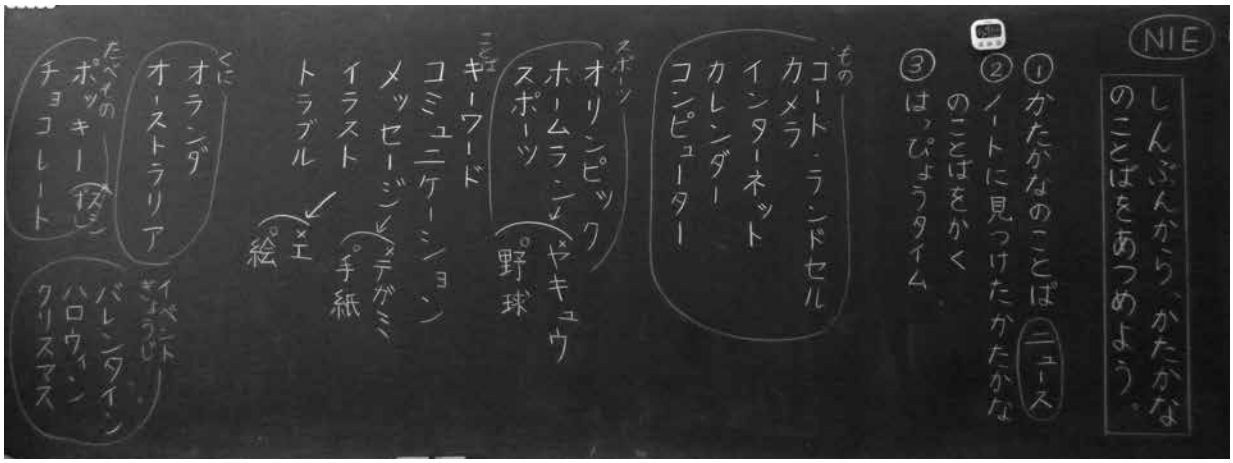
（１）１・２年生の実践

〔国語〕カタカナ言葉探しから、世の中の出来事に関心を向けさせる工夫

昨年度取り組んだカタカナ言葉探しの活動を、より洗練した形で実践した。

１年生は、子ども新聞の記事の中からカタカナ言葉を探し、ノートに書いていった。 その後、見つけたカタカナを発表し、クラス全体で共有する際、教師が「スポーツ」「食べ物」「イベント」などに仲間分けしていき、他の言葉との概念の共通点や相違点がわかるように工夫した。





２年生は「生き物の名前」「外国の地名」「人名」などに加え、「コンコン」「カンカン」といった擬音語にも注目させていた。

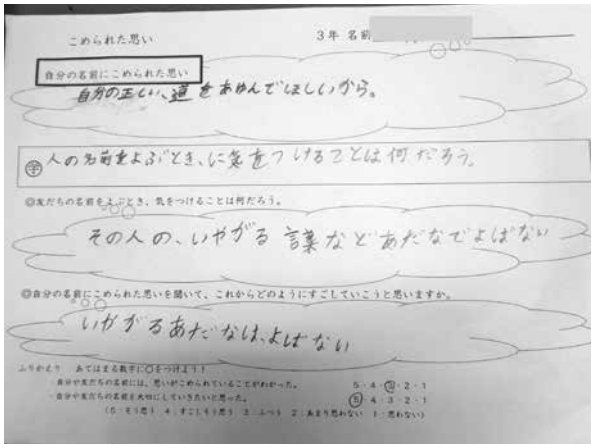
さらに、言葉そのものについての知識を増やすだけでなく、記事の内容にも触れ、世の中で起きているどんなことを取り上げているのか、記事の内容についても紹介した。

カタカナを集めることで、外国の国の名前や地名、人名など、どのような時にカタカナ表記が用いられているか、という理解につながった。

（２）３・４年生の実践

〔道徳〕新聞コラムの教材化

新聞記事には、読者が投稿するコラム欄がある。コラム欄の記事は、社会に関する基礎的な知識が十分にない子どもたちにとって、内容が理解しやすい。そこで、３・４年生では、子どもたちの実態に応じた新聞コラムを教師が選び、道徳の時間に扱えるよう教材化し、授業を実践した。



取り上げたコラムの内容は、「自分の名前に込められた思い」というものである。教師がコラムを読み聞かせた上で、子どもたちひとりひとりの名前の由来を学級で発表していった。そして、名前には家の人の思いや願いが込められていることを理解し、学校の日常生活の中で、お互いの名前を気持ちよく呼び合うためにはどうすればよいか、学級内で話し合いをするよい機会となった。

このように、新聞のコラムを入口として、子どもたちの学校での生活を改善していけるような教材となるよう、教師が工夫した。

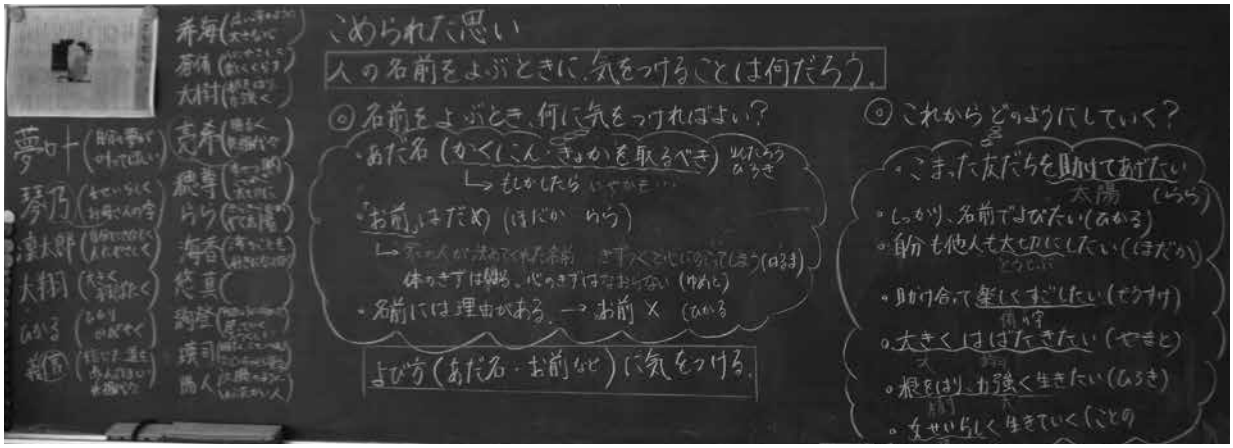
（３）５・６年生の実践

〔総合〕自分の考えを伝えるためのツール

５・６年生は、新聞の中から自分で選んだ興味のある記事の要約をした上で、記事についての自分の考えを書き、友達に伝える活動を行った。

その他にも、本校では今年度、読売新聞の「よむYOMUワークシート」の活用に取り組んできた。よむYOMUワークシートの記事の内容は、５・６年生の子どもたちにも十分理解できるものになっており、記事の内容について、自分の感じたことを書き、友達に伝える活動に取り組んだ。

また、総合的な学習の時間に、ひとりひとりが



「情報ノート」を持ち、新聞に使われている言葉や、記事の内容について、ノートにとりためていき、学級全体でも共有した。ひとつの出来事がわかると、その出来事に関連する言葉や概念が新たに現れ、また新たな疑問を調べていく。子どもたちの主体的な調べ活動となるよう、教師が工夫し、自分の考えを意欲的に伝えるための有効なツールとなった。

３　結果

低学年は、「カタカナの言葉を探す」などの言葉探しの活動から、世の中の出来事に関心を向けさせる工夫をした。

中学年は、新聞記事に取り上げられた世の中の出来事から、子どもたち自身の学校生活の改善点に気づくことができるよう、工夫をした。

高学年は、新聞記事を通じて情報を処理し、その情報について自分の考えを表すことができるように工夫した。

４　考察

＜成果＞

児童にとって、少し難しいと感じられる新聞も、教師が子どもたちの発達段階や実態に応じて、適切に教材化することで、子どもたちが意欲的に活動し、それぞれの授業のねらいを達成するための有効な教材となった。

＜課題＞

新聞記事の精選が、大きな課題であると感じた。小学生の子どもたちには、子ども新聞ではない大人向けの一般紙の内容は難しく、教材化する上で大きな壁となった。新聞記事を取り上げて活用するためには、政治面や社会面などの基礎的な知識が必要となる。記事の社会背景に迫っていく手法がとれるのは高学年になってからが多く、低・中学年の子どもたちに向けた記事は、コラム欄やスポーツ欄の記事が中心となることが多かった。

子ども新聞も活用したが、教師が目の前の子どもたちの実態に応じて記事を精選し、教材へと加工するためには、かなりの労力をかける必要があった。そのため、各教科の単元で、どのような新聞記事を教材として扱うのか、授業展開事例集などがあれば、他の学校でも取り組みやすくなるのではないかと感じた。

５　まとめ

新聞を扱った授業づくりを工夫していく中で、世の中で今起きていることや、生きている人たちの喜びや悲しみなどを、子どもたちが知る絶好の機会となった。新聞は、学校の学びを世の中の出来事へとつなぐ、貴重なツールのひとつであると改めて実感した。

新聞に親しみ、社会の事象に関心をもつ児童の育成

～新聞活用の充実を通して～

白井市立白井第一小学校　　久本　誠一

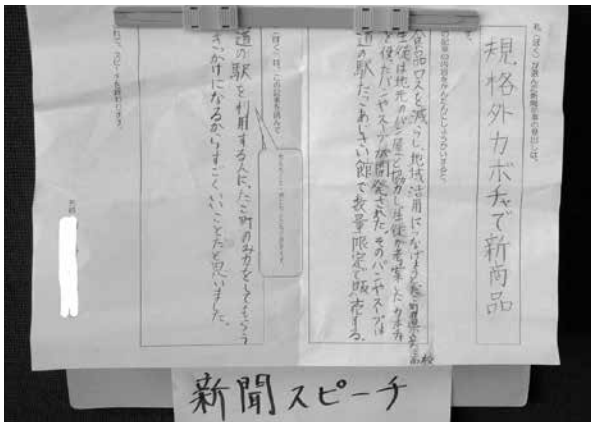
１　はじめに

本校は，令和 4 年度から 5 年度にかけてＮＩＥ実践校の指定を受け，実践を行ってきた。1年目は，児童が新聞に親しみ，社会で起こる出来事に関心をもつきっかけをつくるために，新聞記事を用いた様々な活動を実践してきた。2 年目となる今年度は，前年度の取組を継続，発展させ，より新聞に親しみ，社会事象に関心をもつ児童を育成できるような取組を行った。

２　実践と成果と課題

実践1　新聞記事を用いたスピーチ（５・６年生）

届いた新聞に目を通し，子どもたちへ知ってほしい内容や考えてほしい内容がある記事を児童に配付する。今年度は，記事を写真に撮り，タブレットを活用して児童に配付した。児童はそれらに目を通し，もっとも関心をもったものについて，「見出し」「記事の概要」「感じたこと・考えたこと」をスピーチ原稿にまとめる。それを朝の会や帰りの会で読む活動を実践した。また，昨年度から継続して実践することを保護者に文書で知らせ，スピーチ原稿作成の際に，児童への協力を依頼した。



成果

新聞記事を目にする機会を増やすことができたことが，何よりの成果である。内容が難しいときは家族に力を貸してもらう児童もおり，家庭内で社会の出来事を話す場面も増えた。記事を読んで考えたり感じたりしたことについて，それぞれの考え方や感じ方があることに聞いている方も気付くことができ，他者理解の一助ともなった。

課題

内容をきちんと読み取れず，家庭の力も借りられない児童の中には，詳細まで読み取ることなく，スピーチしている様子があった。家庭環境の差に左右されない取組の在り方を工夫する必要があった。

実践2　新聞には何が書いてある？（１・２年生）

学級担任が子ども新聞を中心に目を通して記事を選択し，児童へ紹介する。児童はそこで社会の出来事について知り，感想を交流し合う活動を行った。また，紹介した記事が載っている新聞は廊下の新聞コーナーに置いておき，休み時間などに児童が見られるようにした。

成果

新聞の内容を紹介することで，新聞記事に対する関心が高まり，置いてある新聞を手に取る児童が増えた。新聞の内容を知ることで，知らなかったことを知る機会になった。特に，普段の生活でニュースを見ない児童ほどその傾向が強かった。

課題

新聞の内容を児童だけで理解をすることには限界がある。担任がかなり簡単にして説明してやっと理解ができるようになる。新聞に対する関心が高まり，手に取る児童が増えたことはよいことだが，内容理解の壁をどのように越えるかは検討が必要であった。

実践３　その時，何を考えた?（３・４年生）

学級担任が新聞に目を通し，人物の写真資料がある記事を選択する。その記事から本文を除いた写真資料のみのプリントを作成し，映っている人物の心情について考え，吹き出しに自分の言葉で表現する。そのあと，どのようなことを書いたかを交流し，記事の内容について話をする活動を行った。4 年生

社交ダンス全国大会で２冠

プロ目指す船橋の小６ペア

葛飾小　斉藤 有音君

田喜野井小　柴田 莉奈さん

ラテンアメリカンの動きを実演する海陸君（左）と柴田さん＝船橋市役所

■スタンダード
■ラテンアメリカン

市長に快挙報告

２回もゆう勝できてうれしいな。

については，昨年度からの継続だったため，今年度は途中から新聞記事を事前に読ませた上で，被写体の気持ちを表現する活動に切り替えた。

成果

社会科の学習に関わりのある記事を選ぶことで関心を高め，学習内容の理解につなげることができた。また，まずは写真に写っている人物の心情を想像することで，記事の内容への関心を高めることができた。活動を終えた後も，その記事を詳しく見ようとする児童もおり，社会の出来事を知る楽しさを味わうことができた。途中から方法を変更した 4 年生については，新聞記事を自分で読むことに多少の難しさはあったが，なるべく分かりやすく短い内容の記事を選んで児童に与えたことでそれなりに関心をもって取り組むことができた。また，記事の内容の紹介だけでなく，それに関する他の知識なども事前に調べて紹介することでさらに関心を引き出すことができた。

課題

記事や写真の選び方により，児童が飽きてしまったため 2 年目となる 4 年生に関しては，記事を読ませる活動も取り入れたが，新聞にはどうしても難字・難語があるため，読み取りに個人差が生じてしまった。

実践４　見出しを考えよう！（５・６年生）

学級担任が新聞に目を通して記事を選択し，見出しを隠した状態のプリントを作成する。児童は新聞記事の内容を読み，どのような見出しが適切か考えて表現する。その後書いた見出しを交流し，実際の見出しと合わせて記事の内容を確認する活動を行った。

縄文時代のメニュー味わって

君津の小中校 未利用貝だしでスープ

成果

活動を始めたばかりのころは見出しが書けない児童がいたが，だんだんと書けるようになっていった。記事の中で，特に印象深かったことを各自が見出しとして表現することが多く，同じ記事を読んでもそこから感じることはそれぞれ違うことが分かり，スピーチ同様他者理解へとつながった。同時に，記事を読んで内容を理解する力も高まった。

課題

正解の見出しは何かを考えるあまり，表現に至らない児童が見られた。「自分がこの記事を書いた記者ならば，どのような見出しにするか考えてみよう。」と声かけをするようにした。児童が自分で読み取る活動になるため，あまり複雑な内容の記事は扱えず，記事選択の幅は狭かった。高学年ともなればより社会の実情に踏み込んだ記事も扱っていきたいと考える。

実践５　新聞から学ぼう！（計画委員会）

実践1のスピーチに選んだ記事を５・６年生計画委員会児童に与え，一言コメントを付けて廊下の掲示板に掲示する。

成果

児童が，いつでも目にすることができ，新聞記事に興味をもたせることについての一助となった。５・６年生にとっては，自分が選んだものと同じ記事について，友達がどんなコメントをしているのかを読んだり，交流したりすることでここでも他者理解につながった。

課題

計画委員会の常時活動として行ったが，更新を頻繁に行うことがあまりできず，タイムリーな記事を掲示できていないこともあった。

３　結果

ＮＩＥの実践を始めて，令和４年度末（Ｒ５ .３）と令和５年度末（Ｒ6.２）に全校児童を対象にアンケート調査を実施した。

①世の中のニュースに関心がありますか。

・ある　78．5%　→　79．7%

・ない　21．5%　→　20．3%

②どのようなニュースに関心がありますか。

(複数回答)

・スポーツ

59．5%　→　70．6%

・芸能

49．2%　→　49．7%

・政治

9．5%　→　16．0%

・経済

15．8%　→　19．6%

・国際

19．0%　→　21．7%

・事件・事故

63．4%　→　63．6%

③ニュースを何で知ることが多いですか。

(複数回答)

・テレビ

92．8%　→　96．7%

・インターネット

35．7%　→　64．9%

・新聞

19．0%　→　64．9%

・ラジオ

8．7%　→　29．1%

4　考察

2年間のＮＩＥ実践で，新聞記事を扱って様々な活動をしてきたことで，社会の出来事に関心をもつ児童が数値として増えた。また，実践をした職員の実感として，新聞記事の内容を読んだり知ったりすることは，児童の思考の幅を広げることにも効果が感じられた。

しかし，新聞は本来大人を読者層としてつくられているため，児童だけで内容を理解することには限界が見られる。今はまだこちらからの働きかけが新聞に触れるきっかけとなっているが，やがては自ら手に取る児童にしていくためには，さらなる実践が必要と考える。

5　まとめ

2年間のＮＩＥ実践を通して，児童が新聞に親しみ，社会で起こる出来事に関心をもつきっかけとなった。それらの活動を通して，それぞれの成果で挙げたとおり，社会の事象について知り，そこから考えたり感じたりしたことを経て学びを得る，目指す児童の姿にほんの少しだが近づくことができた。児童に与える新聞記事を選ぶ機会をたくさん得られたことで，何より職員の新聞に対する関心が高まった。今後も新聞を取り入れて教育活動に当たっていきたいと考える。

新聞に親しみ、インプットから
アウトプットする力の育成を目指して

匝瑳市立豊栄小学校　　岩田　啓佑

１　はじめに

本校では令和５年度よりＮＩＥ推進校の指定を受け、本報告は1年目の実践についてである。本校では、これまでに社会科や総合的な学習の時間の授業のまとめで新聞を作成してきているが、児童が新聞を身近に感じ、自ら進んで新聞の内容をじっくりと読む活動には至っていない。

全国学力学習状況調査の結果より、思考力、表現力の育成に課題を抱える本校としては、本事業の取り組みによって、児童が新聞に親しみ、自分の考えを持ち、表現する力を育成することを目標としている。

２　実践内容

(１)新聞に親しむ活動

学級で読書の時間を確保しているため、学校で読書する割合は高い反面、本校６年生のうち、新聞を読んでいる児童は学級の８％であり、90％以上が新聞を全く読まないかほとんど読まないという実態である。そのため、まずは新聞に慣れることから始めた。

①新聞を読むスペースを作成

本校は廊下が広く、ホールとして活用できる構造となっているため、そこに新聞を読むスペースを作成した。毎朝送られてくる各社の新聞を置き、いつでも読める場を設定した。また、新聞博士を目指したランキング表を作成し、自ら進んで読むことができるようになることをねらいとした。

②新聞クイズを作成

ＮＩＥ担当職員が新聞の中から児童が興味を示しそうな記事を選び、「○○選手の写真を探せ」や「アニメのキャラクターは何匹いるか」などのクイズを出し、児童が新聞を開くための動機付けをした。

③新聞を読む時間の確保

朝の読書タイムの時間を活用し、新聞の記事に目を向ける取り組みをしてきた。初めは新聞を準備し、パラパラと開いて終わりになる児童もいたが、様々な記事の中から１５分間で読める記事、気になった記事を選び、じっくりと読むことができるようになることをねらいとした。

（２）見出しを考える活動

総合的な学習の時間を活用して、新聞の内容をじっくりと読み、何について書かれている記事か、記者は何を伝えようとしているのかを読み取り、見出しとして自分の言葉で表現する活動に取り組んだ。

担任が児童の関心がありそうな記事を探し、見出しを切り抜いた記事を配付し、一人一人自分の言葉で見出しを考えた。

３　成果と課題

〈成果〉

（１）より、これまで新聞を触ることもなかった児童が登校後や休み時間にパラパラと新聞をめくり、新聞に慣れ親しむようになってきている。 中学年は友達を誘って一緒に探したり、答え合わせをしたりしてコミュニケーションを図る姿も見られた。 また、たくさんの記事の中から気になる記事を探し、読む力が身に付いてきている。

（２）より、継続して新聞を読む機会を設けたことで、記事の内容を適切に読み取り、要約できるようになってきた児童が増えてきている。 見出しを書き表す前に友達に記事の内容を伝え合う場面を設定したことも内容を理解するための一助となり、見出しに適した短いことばで表現することもできるようになってきた。

〈課題〉

（１）より児童の関心を維持していくためには毎日の新聞の入れ替えが必要であるため、職員の負担が非常に大きい。 また、一斉にたくさんの児童が読めるスペースがないため、意欲的に新聞を読んでいる児童の割合としてはまだ低いと感じる。 問題を出す担当を児童にしていくことで、職員の負担を減らしながら児童が新聞に関わっていく頻度が高まっていくのではないかと思われる。

さらに、低学年から新聞（こども新聞を含め）に慣れていく機会を設けていくと、高学年になっても自然に新聞に関わる習慣が身についてくるのではないかと感じた。

４　おわりに

ニュースは新聞よりもインターネットやテレビで情報を得ていることが多いこどもたちであり、今回は新聞の開き方、読み始める順番などがわかっていない児童が多かった。 それほど新聞に触れていない

児童が多くなっている中、本年度の実践を行ってきたことで、児童は新聞が身近なものに感じられるようになってきており、記事に対する関心も高まってきていると感じた。 文字が多く敬遠されがちな新聞であったが、時間や場所を確保することで新聞記事をじっくりと読もうとする姿がよく見られるようになり、内容を自分の言葉で表現することができるようになった。

次年度は、より記事の内容を理解し、自分の言葉で詳しくわかりやすい表現でアウトプットできるようにしていきたい。

初めてのＮＩＥ　～新聞に親しもう！～

袖ケ浦市立中川小学校　　伊大知　里枝

１　はじめに

中川小学校は、令和５年度よりＮＩＥ実践校の指定を受け、本年度が1年目の取り組みとなる。

最近は、新聞を購読していない課程や新聞に触れる経験が少なくなってきており、本校児童にとっても新聞は身近なものではない状況である。ＮＩＥに初めて取り組む今年度は新聞に触れ、新聞の楽しさや魅力を感じながら、「新聞に親しもう！」を目標に活動を行った。

２　実践状況

【1年生の活動】

1年生では、初めて新聞を手にする児童が多くいた。初めての新聞を手に取って「どうやってめくるんだろう？」、「字がいっぱい。読めないな。」、「おもしろい写真があるよ。」など様々な感想があった。

そこで、めくり方や読み方など新聞について一から話した。初めて触れる新聞に児童は興味津々であった。新聞の中から気になった写真を切り抜き、写真を集める活動を行った。集めた写真を台紙に貼り、吹き出しにどんなことを言っているか想像力を働かせて書く活動を行った。

楽しみながら新聞をめくり、写真に吹き出しを書くことで、表現する力が育まれたように思う。

＜1年生の活動＞

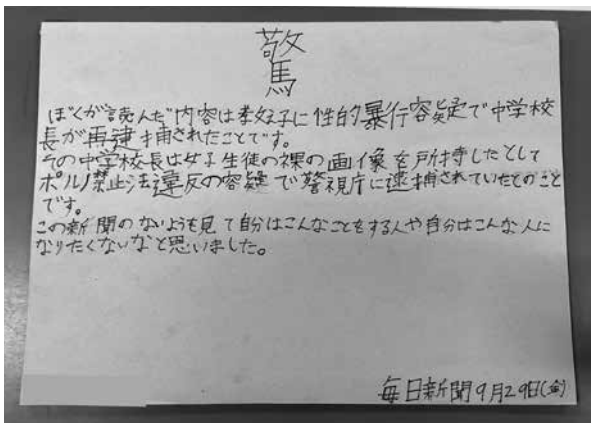
【３年生の活動】

３年生では２つの実践を行った。

1つ目の実践は、朝に「新聞タイム」として、新聞を読む時間を設けた。習っていない漢字も多く、普通の新聞記事を読むのが難しいので、興味を持った写真を切り抜き、友達に紹介する活動を行った。好きなスポーツの写真や世界のニュースなど、社会の出来事に興味をもつことができた。

２つ目の実践は、「漢字博士になろう！」である。国語の授業で「へん」と「つくり」など漢字の構成を学習したので、新聞から「言（ごんべん）」や「木（きへん）などのつく漢字を見つける活動を行った。

＜３年生の活動＞



敬
馬

ぼくが読んだ内容は教女子に性的暴行容疑で中学校長が再逮捕されたことです。
この中学校長は女子生徒の裸の画像を所持したとしてポルノ禁止法違反の容疑で警視庁に逮捕されていたとのことです。
この新聞のないようを見て自分はこんなことをする人や自分はこんな人になりたくないなと思いました。

毎日新聞9月29日(金)

【５年生の活動】

５年生では、国語「新聞を読もう」の授業実践を行った。

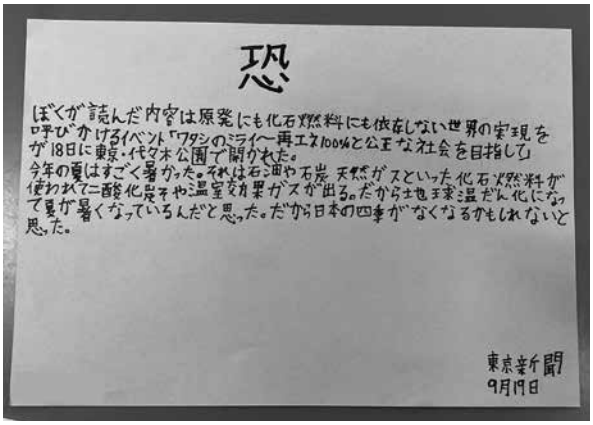
新聞の仕組みを知り、新聞記事の構成、見出しやリードなどの用語を全体で確認し、気づいたことを話し合った。

その後、一人一新聞を手に取り、気になる記事をじっくり読む活動をした。

新聞記事を読み、内容をわかりやすくまとめ、そこへ感想を加えた。見出しを工夫して友達に紹介を行った。記事から考えたことを漢字一文字の見出しで工夫して表現した。

また、同じできごとを扱った記事でも新聞社によって表現方法が異なっていることに気づく機会にもつながった。

＜５年生の活動＞



恐

ぼくが読んだ内容は原発にも化石燃料にも依存しない世界の実現を呼びかけるイベント「ワタシのミライ～再エネ100%と公正な社会を目指して」が18日に渋谷代々木公園で開かれた。
今年の夏はすごく暑かった。それは石油や石炭 天然ガスといった化石燃料が使われて二酸化炭素や温室効果ガスが出る。だから地球温だん化になって夏が暑くなっていろんだと思った。だから日本の四季がなくなるかもしれないと思った。

東京新聞
9月19日

3　結果

1年生では、興味を持った写真から想像力を膨らませて、表現する力が高まった。また、文字や言葉探しの活動を通して、言葉の学習にもつながった。

３年生では、楽しみながら漢字の学習をすることができ、漢字への興味を広げることにつながった。また、新聞から数字を見つけ、算数の大きな数と関連させた学習もできた。

５年生は新聞を読む活動を通して、内容の要約や自分の思いを表現する力がついた。

4　考察

初めての新聞に触れる児童も多かったが、学年や発達段階に応じて、様々な取り組みができ、今年度の目標の「新聞に親しもう！」を達成できた。また、表現する力が実践したことで高まったように感じる。

今後は、年間計画の中にＮＩＥ教育を活用できるように取り組んでいきたい。

5　まとめ

ＮＩＥ教育の指定を受け、初めて指導する教員も多かったため、研修を行ったり、自分の学年に取り入れるために教材を考えたりした。　次年度は、全校の児童が新聞に触れ、意欲的に活動ができるように取り組んでいきたい。

書き手の思いを大切にして新聞を読み、書く活動

千葉市立磯辺第三小学校　　五十嵐　裕一

１　はじめに

本校は、一昨年度からＮＩＥ推進実践校としての指定を受け、２年目の取組となる。

そこで今年度は児童が新聞を身近な物として感じ、習慣的に新聞を読めるようにすることと、新聞のよさやおもしろさ、書き手の思いに気付くことを目標にし、学習を進めてきた。

２　実践状況（対象：４～６年生）

（１）市教育研究会での授業提案

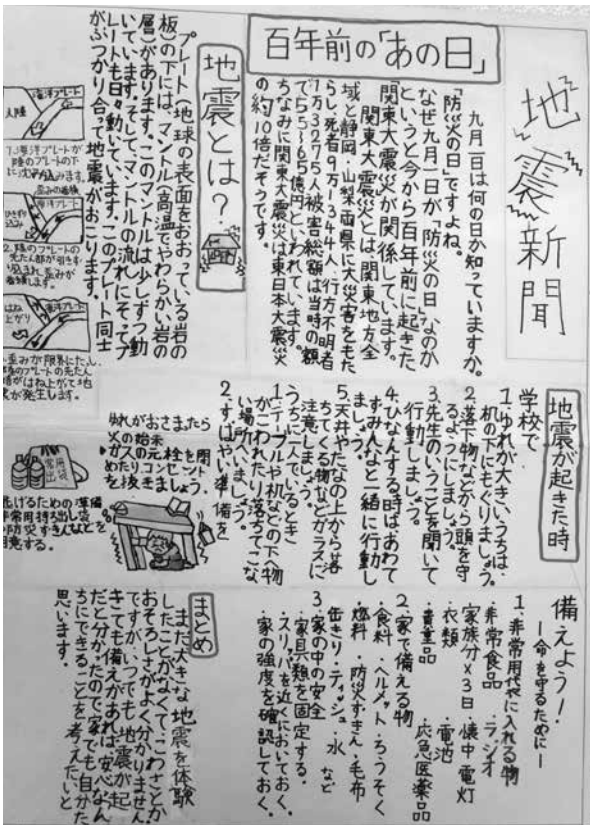
6月20日（火）、千葉市教育研究会国語部会で千葉市代表として５年生国語「新聞を読もう」の単元で授業提案を行った。まずは実際の新聞記事を扱いながら、新聞の構成がどのようになっているのかを考えた。そのうえで、同じ内容を扱った全国紙と地方紙における記事の記述の違いについて読み解き、その理由を考える学習に取り組んだ。児童は、それぞれ見出し一つで読み手の印象が変わることや、記者の意図によって記事の内容が変わり、読者に与える印象が違ってくることなどに気付いた。授業の最後には、教師が地方紙（京都新聞社）の記者に事前にインタビューした動画（インタビュー内容については、5に記載）を見せた。書き手の思いや、読者に注目してほしいところなど生の声を聴くことで、学びを深めることができた。

このような学習をきっかけに、日常的に新聞を読む機会が増え、自らが書き手として発信したいという思いを育むことにつながった。

（２）新聞を書く活動

本校では、夏休みの課題として4～6年生を対象に県連合読売会主催の「手作り新聞コンクール2023」に応募した。各々が興味関心のある題材を選んで書き、個性溢れる作品がたくさん仕上がった。「デザイン賞」、「取材内容賞」、「タイトル賞」、「字がきれいで賞」など様々な賞をいただくことができた。また、本市唯一の学校賞を受賞することができた。

さらに、国語、社会、行事の振り返り等様々な場面で新聞を書き表現する活動に取り組むことができた。



３　実践の結果～考察

今年度は４～６年生での実践を中心に行った。日頃からの取組として廊下に新聞コーナーを設け、手軽に手に取って読めるようにした。そのおかげで児童の新聞への興味が広がり、登校後や休み時間にコーナーに立ち寄る姿が増えた。また、複数の新聞記事の比較読みがしやすくなった。

提案授業では、全国紙と地方紙における記事の記述の違いを読み解く学習を通して、受ける印象の違いを感じることができた。また、新聞記者の生の声を聴き、新聞記者の思いを受け取ることができたのは大きな成果である。

授業時間だけでなく、長期休みを使ってじっくりと内容を考え、時間をかけて取材、校正をして書くと、より新聞に対する親しみがもてるようになることもわかった。

一方で課題としては、新聞に興味・関心が低い児童への働きかけや、低学年への新聞の活用法がまだ明確に見えていないことである。様々な教科、学年で活用していくことを今後検討していきたい。

４　まとめ

児童の身近に新聞を感じさせるためには、日頃から新聞のある環境を整え、新聞に触れる機会を増やしていく必要がある。短時間でも継続して取り組むことが学習効果を高め、児童の「読みたい、書きたい」という思いにつながってくるのだろう。

また実際に新聞に書き表すことで、新聞の構成を深く学ぶことができ、読者により伝わりやすい書き方を考えることができるとわかった。

５　インタビュー内容

「今日は、みなさんが読んだ桐生選手の記事を書かれ、現在は京都新聞社報道部でお仕事をされています、○○さんにお話を伺いたいと思います。○○さん、どうぞよろしくお願いします。」

「まず、桐生選手の記事をどんなお気持ちで書かれたのか、教えてください。」

「桐生選手の９秒台のレースを見たときの、体が震えるような感覚は今でも覚えています。

京都新聞に桐生選手の名前が、最初に載ったのは、中学３年生のときです。京都新聞は、京都府と滋賀県の読者に届けられている新聞です。

桐生選手は滋賀県彦根市で生まれて、滋賀の中学校で陸上を始めて、京都の高校で日本トップの選手に成長しました。

私は、桐生選手を高校２年から取材し、ずっと追いかけてきました。

レースをできるだけ見て、本人や指導者から話しを聞いてきました。

９秒台を出した記事では、今まで見て、聞いて、感

じたことを、できるだけ読者に伝えたいと思って、記事を書きました。」

「桐生選手のことをずっと追いかけ、取材してこられたのですね。ありがとうございます。
では、京都新聞という地方紙の記者として、記事を書くときに意識していることはどんなことですか」。

「この記事は９秒台を出した後に考えて書いた記事ではありません。
ずっと前から、桐生選手が９秒台を出したときに、どのような記事を書くのかを、考えて準備してきました。
まず、日本人で初めての９秒台が出たら、読者は何を知りたいだろう、ということを考えていました。やっぱり、みなさんが思うことは、「なぜ桐生選手はこんなに速いのか」ということだと思います。そして、京都新聞の記者として、京都と滋賀の読者は何を知りたいだろうということを考えました。
桐生選手が滋賀と京都で、どのような努力をしたのか、どのような指導を受けたのか。
大学生になると、京都を離れて埼玉で練習していましたので、京都や滋賀に帰ってきたときに、どんなことを思ってきたのか。京都、滋賀の人たちが、どんなふうに桐生選手とかかわってきたのか。桐生選手にとって、滋賀と京都はどんな場所だったのかを、強く意識しました。」

「ありがとうございます。では、最後の質問です。全国紙と地方紙では、いろいろとちがいがあると思いますが、地方紙を読むときに、注目して読んでほしいところはどんなところですか。」

「地方紙の記者は、その場所で暮らして、ずっと地域のことを細かく取材しています。いろいろなニュースを取材しながら、喜んだり、楽しんだり、悲しんだり、怒ったり、不安に思ったりします。その気持ちを大事にして、記事を書いています。
みなさんが住んでいる千葉県にも、地方紙・千葉日報がありますね。スポーツでは、プロ野球の千葉ロッテマリーンズが好調ですので、マリーンズの勝利を伝える記事が、たくさん載っているのではないかなと思いますが、注目してほしいのは、負けたときでも、しっかりと記事が載るのが、地方紙だと思っています。負けたときの記事を味わってほしいと思います。
スポーツだけではなくて、事件･事故、政治、経済、環境問題など、いろいろなニュースを長い時間をかけて、じっくり取材しているのが、地方新聞です。地域に根ざした記事をたくさん読んで、地域のことを考えるきっかけにしてほしいと思います。」

「いろいろな記事を、いろいろな角度から読んでいくと、新聞をもっと楽しく読めそうだと思いました。
○○さん、本日はお忙しい中、貴重なお話をありがとうございました。」

新聞に親しむための活動 ～新聞を身近なものに～

船橋市立芝山東小学校　　鈴木　郁衣・岡田　絵理（司書）

１　はじめに

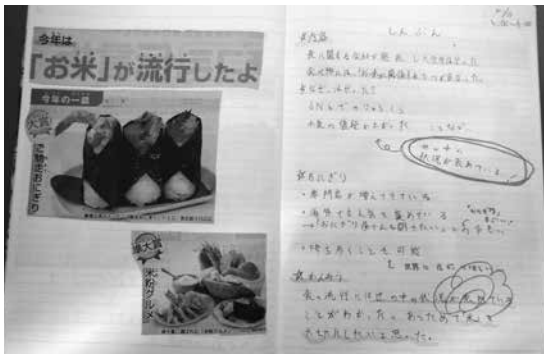
本校は、令和４年度よりＮＩＥ教育推進の指定校を受け今年度で２年目となる。

昨年度から「継続的な活用と児童が新聞に触れる、親しむ」を目標に取り組んできた。全校の児童が毎日、新聞に触れる機会を増やすための環境づくりにも行ってきた。その実践を報告する。

２　実践状況

実践１　朝の会でのスピーチ活動

６年生において新聞記事を読み、その内容と感想を伝えるスピーチ活動を行った。児童は、自分の興味関心のある記事を選び、要約した内容とその記事を読んだ感想を朝の会で発表する。この取り組みを毎日継続して行った。



実践２　授業や係活動における新聞の活用

３年生では、図書館に常置した新聞を使って、ニュース係が学級に知らせたい記事を紹介した。また、５年生では俳句の授業を行う際、新聞に載っている俳句を紹介し、意見交換を行った。

実践３　図書委員会が発信する新聞記事

図書委員会の児童が、自分で選んだ新聞記事を紹介する活動を行った。新聞記事を読むきっかけづくりや時事ニュースに関心をもってもらう活動として、取り組んだ。児童が自分で記事を選び、その内容に対する自分の考えを簡潔にまとめて表現する場をつくった。また、司書も常時新聞記事の紹介を行っていて、図書室の入口に掲示してある。

３　成果と課題

スピーチ活動では、児童が進んで新聞を読むようになった。新聞記事を読むだけでなく、自分の考えを簡潔にまとめることで、文書を書く力がついたように感じる。また、友達のスピーチを聞いて自分の考えを伝えたり、質問したりすることもできるようになり、この活動を通して物事を多面的に捉える力もついてきた。

授業等での活用では、児童が進んで新聞を手に取る様子が多く見られるようになった。休み時間等にも新聞を読んでいる姿があり、新聞が身近なものとして定着したようだ。

図書委員会の活動では、新聞記事を掲示することで、全学年の児童に発信することができた。

図書室に来た際、担任と一緒に記事を熱心に読む姿や新聞記事を欲しがる児童の姿も増え、新聞がいつもそばにあるという環境を作ることができた。児童だけでなく、教員の意識も高まり、大人も新聞を読むようになった。

新聞を読むことによって言葉選びに工夫が見られるなど表現が洗練されつつあるように思う。見出しの付け方にも、オリジナリティあふれ、人をひきつけるような魅力のあるタイトルが書けるようになった。また、より自分事として出来事への関心を高めるよい機会ともなった。

４　考察とまとめ

３年生以上では、新聞を取り入れた授業実践は取り組みやすいが、低学年では、取り入れ方が難しいのが現状である。昨年度から、どのように全学年が活用の幅を広げて取り組んでいくかを課題としてきたが、良い解決策を模索中だ。まだまだ、実践の幅を広げることができるだろうと考えている。また、2 年間ＮＩＥに取り組み、教員の意識も向上した。教員が進んで新聞を読んだり活用したりすることで、いつも児童のすぐそばに新聞があるという環境を作ることができた。今後は、学校の授業以外でも、新聞に触れる児童が増えていくよう支援していきたい。

普段の生活で新聞を活用してみよう

八千代市立大和田西小学校　　川上　しずく

１　はじめに

本校は、今年度より指定を受け、ＮＩＥを実践することとなった。今年度は初年度になるため、委員会活動や授業などで新聞を活用することを校内で呼びかけ、活動を行った。また、八千代市では「ＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）の推進」に力を入れている。そのため、ＳＤＧｓとＮＩＥを連携させることも意識し、活動をした。

２　実践の成果と課題

実践１
ＳＤＧｓを広げよう（子供計画委員会）

（１）内容

子供会活動では、週に２回、校内２か所に新聞記事を掲示する活動を行った。

８種類の新聞の中からＳＤＧｓに関係し、自分たちの生活に関わる記事を探し、廊下の２か所に掲示した。その際、ポイントとなる部分に印を付けて、目立つようにしたり、ＳＤＧｓの目標に関する番号を書いたりした。また、記事の内容から子供たちに意識してほしいことを呼びかけ、注目してほしい部分を目立つように掲示した。

（２）成果

・最新のＳＤＧｓに関連する情報を全校に周知することができた。
・目標番号を書いたことで、記事がどのような内容なのか分かりやすくなった。

（３）課題

・記事の内容が難しいものが多く、なかなか読んでもらえなかった。
・記事を貼るだけでは子供たちに興味をもってもらうことはできなかった。

実践２
同じ日の同じニュース　見比べてみよう！
（広報委員会）

（１）内容

広報委員会では、異なる新聞社の記事の中から、同じニュースを見付け、掲示する活動を行った。

同じニュースを赤ペンで囲み、３社分の記事を比較できるように廊下に掲示して、見比べられるようにした。

同じ記事でも、題名や内容が異なることに着目ができるように、線や印を付け、子供たちが関心をもつことができるようにした。

（２）成果

・同じ記事でも、見出しや写真が異なることから、ニュースに関心をもつ子供がいた。
・異なる新聞社だが、一面のニュースは内容が同じであることが多いと気付く子供がいた。

・記事を見付ける際に、スポーツ欄や地域欄から探そうとする子供がいた。手当たり次第に記事を探すのではなく、どのページを見たらよいかという視点が育った。

（3）課題

・廊下で足を止めて新聞を読む子供の数は少なかった。

・見出しや内容の違いが一目見て分かるようになっていなかった。

実践3
片仮名探し（1年生・国語）

（1）内容

多くの子供が片仮名を書くことができるようになってきたため、片仮名の学習の発展として、新聞記事の中から片仮名で書いてある言葉を探す活動を行った。新聞記事の中にある片仮名を丸で囲み、見付けた片仮名をノートに書く。その後、見付けた片仮名を友達と紹介し合った。

（2）成果

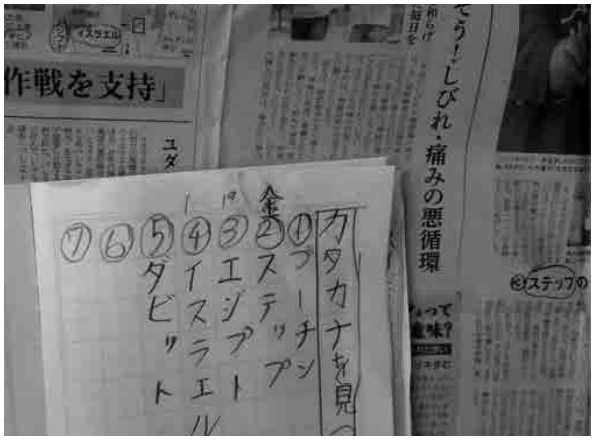
・語彙を増やすことができた。

・片仮名を多く書いたことで、片仮名に慣れ親しむことができた。

（3）課題

・小さな文字の中から、片仮名を探すことが難しい子供がいた。

・片仮名の言葉の意味が分からないまま、ノートに書いている子供がいた。



実践4
新聞づくり（5・6年）

（1）内容

新聞記事を読み、どのような内容が書かれているのか、新聞のつくりはどうなっているのかなどを確認した。その後、個々にテーマを決め、新聞記事を参考にしながら、新聞を作った。さらに作った新聞をお互いに見合い、感想を伝え合った。

5年生では、宿泊学習に行ったまとめを新聞づくりで行った。見出しの書き方や絵を入れる位置、記事の分け方などを確認し、丁寧に進めた。6年生では、国語科「伊能忠敬」の単元で、伊能忠敬や歴史上の人物について新聞を作り、まとめた。6年生の後半の活動だったため、書き方は自分たちで決め、自由に進めた。

（2）成果

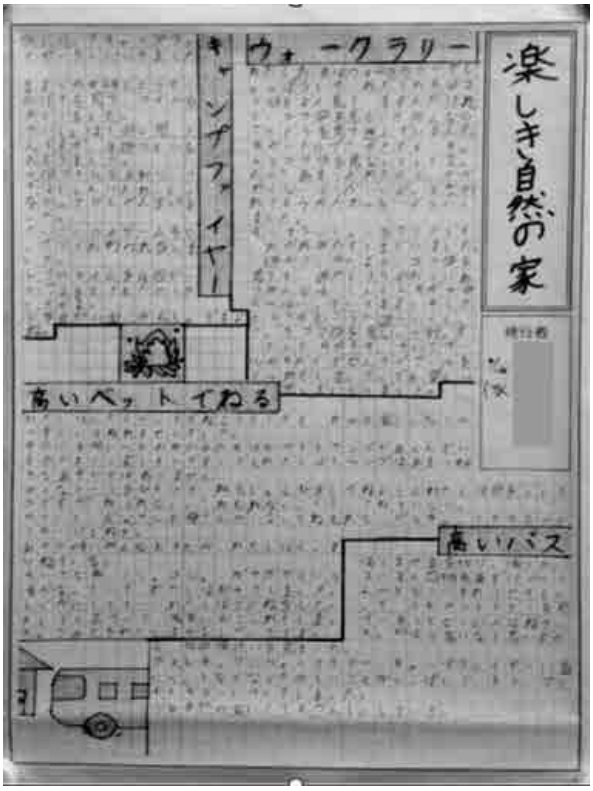
・５年生のときに新聞についての学習があることや、今までにも新聞を作ったことがあることから、新聞づくりに対し、意欲的に取り組んでいる子供が多かった。

・子供同士で見合う機会を設けたため、友達のよいところを探したり、生かしたりすることができた。

（3）課題

・書くことが苦手な子供は新聞づくりへの意欲が低くなった。負担に感じている子供もいた。

・文字や画像の工夫があまりなかった。全て手書きで行ったため、時間がかかった。



３　考察

子供にとってあまり身近ではない新聞も、学年の実態や発達段階、授業内容や活動内容に応じて、様々な工夫をすることで、興味をもち、意欲的に活動することができると感じた。

新聞を活用することで、ニュースに触れることができたり、意思表示をする機会を設けることができたりすることが分かった。

４　まとめ

初年度は、新聞に慣れ親しむことを意識して取り組んだ。今年度の課題点を改善し、来年度の活動に繋げていきたい。

来年度は、４月から計画を立て、今年の活動を改善したものに加え、学年の活動や授業で先生方がさらに新聞を活用できるよう、周知していきたい。

ＮＩＥを通して、社会問題に目を向けられる児童の育成

横芝光町立日吉小学校　　石井　浩人・五木田　優斗

１　はじめに

本校はＮＩＥ実践校２年目である。初年度はＮＩＥタイムを朝学習の時間に位置付け、新聞を活用した様々な取り組み（クイズ作り・言葉集め・要約・意見交流）をしたことで児童が新聞に触れる機会が増え、新聞を身近に感じられるようになった。

本年度は、前年度の取り組みを継続するとともに、各学年で新聞を活用しながら、教科と関連させた授業展開を実践した。

その中で、第５学年が総合的な学習の時間と国語科で行った実践を紹介する。SDGsの視点から社会問題を自分事として捉え、自分たちなりの解決方法を見つけ出す取り組みの中で、情報活用能力やメディア・リテラシーを身に付け、さらに国語科の活動を通して、思考力・判断力・表現力を育成していきたいと考えた。

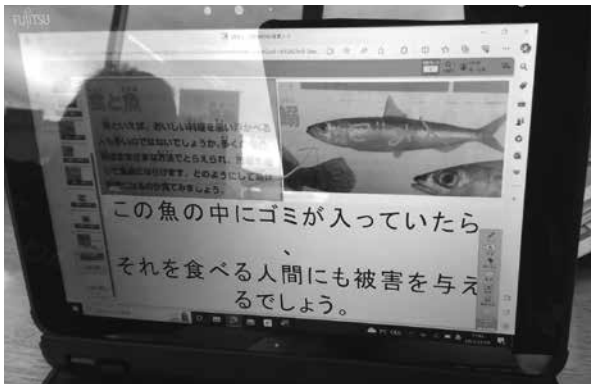
２　実践状況

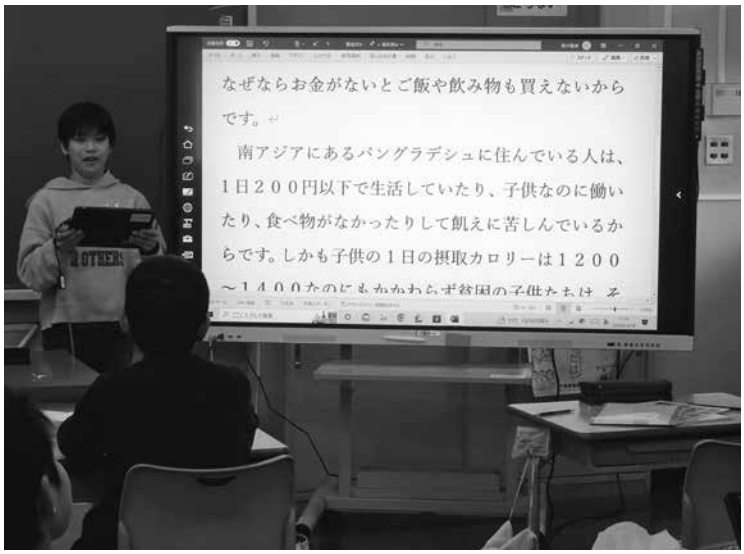
総合的な学習の時間では、Edu town SDGsの「SDGs ってなに？」を視聴したり、SDGｓの１７の目標の中から気になる目標を選んで調べたりする活動を行った。その後グループに分かれ、新聞の中から自分の選んだ目標に関する記事を探し、タブレットで撮影したものをPowerPointに貼り付けてまとめた。調べ学習を行う際には、５つの「Ｐ」（People・Prosperity・Planet・Peace・Partnership）をもとにグループを分けたことで、児童が積極的に話し合いながら記事を収集する様子が見られた。

この学習をもとに、国語科の「あなたは、どう考える」では、学習の発展として、SDGsに関連した記事を読み、意見文を書く学習を行った。

まず、Teamsの協働学習機能を活用し、グループごとにまとめたPowerPointの記事を読み、気になった文や筆者の伝えたいことに線を引き、記事の要約を行った。

その後、記事から調べたことを根拠として、自分の選んだ目標に関する意見文を作成し、発表や意見交流を行った。





年度から実践しているＮＩＥタイムにより、新聞が身近になっていたことが要因ではないかと考える。特に、４～５年生は記事の内容に関する自分なりの考えを書く活動を行ってきていたため、調べたことをもとに意見文を書く際にも根拠を明確にして書くことができていた。

課題としては、今回活用した子供新聞は小学生に読みやすい内容ではあったが、情報が限られており、意見文を作成するために必要な情報が十分にそろえられない児童がいた。事前に多くの新聞を集めておくことや小学生でも読みやすいネット新聞などを併用する必要があると感じた。その際に、小学生では読めない漢字が多く、調べにくいという事も考えられるので指導者側で、どのように資料提供していくかも考える必要がある。

３　結果

総合的な学習の時間では、自分の選んだ目標と関わりのある記事を収集することで意欲的に学習に取り組むことができていた。調べ学習の際に子供新聞を活用したことで、文章が読みやすく、絵や写真が多いことから様々な記事を読んだり、内容を的確に捉えたりすることができていた。

また、教室の中に複数の新聞社の子供新聞を設置したことで、多くの記事に触れることができた。さらに、休み時間や朝の読書の時間に新聞を読んでいる様子が見られた。

国語科の授業では、TeamsやPowerPointを活用して協働学習を行ったことにより、新聞記事を何度も読み、友達と話し合いながら線を引いたり、要約したりする様子が見られ、様々な視点から新聞記事を読み取ることができた。

４　考察

新聞は政治経済・社会問題・自然問題など様々な分野の情報が書かれているため、SDGｓにおける、調べ学習を行う際にも非常に有効的であった。

また、読書が苦手な児童が多い本学級の児童が新聞を使った調べ学習を円滑に行えたのは、昨

５　まとめ

ＮＩＥ推進実践校の指定を２年間受けたことで、児童が新聞に触れる機会が増え、新聞を身近に感じることができるようになった。今回紹介した実践は、様々ある新聞記事から、SDGｓの視点に絞って記事を見つけ、それらの記事からさらに関連する情報を収集する活動を行った。児童は記事を読解するだけでなく必要な情報を選び活用するメディア・リテラシーが身に付いてきていると感じている。

また、国語科では記事の内容からその解決策を根拠に基づき、自分なりに表現することもできた。このことによって、思考力・判断力・表現力の向上も見られた。

今後もＮＩＥを通して社会に目を向けられる児童を育成していきたい。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の在り方
～生徒の主体性を引き出すための活動の工夫を通して～

御宿町立御宿中学校　　石井　裕子

１　はじめに

本校は、令和５年度からの２年間、ＮＩＥ推進実践校の指定を受け、初年度の取組となる。

研究目標を、『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の在り方～生徒の主体性を引き出す活動の工夫を通して～』とし、生徒の主体性を高めるため、授業をどのように変えていくかという視点を持ち授業実践を行っている。 各教科を通して、活動場面の工夫や言語活動の充実により、学習に主体的に取り組む態度を育むことをねらいとしている。手立ての一つとして、新聞を活用し実践をした。

２　実践報告

○授業での活用場面を考え取り組んだ

（１）国語科「新聞を自分の意見文に活用」

教科書に掲載されている環境に関する論説文を読み、今ある資源を大切に使うことが必要だという筆者の考えを読み取った。

その次に、昨年度行ったＳＤＧｓの学習を踏まえ、地球の未来を守るために中学生の自分たちにできることは何かという意見文を書く学習を行った。 その中で、新聞を以下の２点で活用した。①自分の意見の根拠となる事実を探すこと。②投書を読み、意見文を書くときの構成を考えること。

環境問題の実際や、それに対する社会の取組を知ることができた。 そして、同年代の人の投書を読んだことで、学習に意欲的に取り組んでいた生徒の様子も見られた。 新聞を活用することで、情報を集めるだけではなく、その情報を根拠に自分の考えをどのような構成で書けば、読み手に伝えたいことが伝わるのかを考えることにつなげることもできた。

（２）社会科「社会科レポート」

記事を読んで、客観的に自分の意見を述べ個々に新聞にまとめた。 同じ記事でも、新聞各社で異なるところを読み比べ、どの記事を使うかなど自分で判断して考えをまとめ作成した。 また、記事を通して、資料や記事に出ている写真などからどんなことが読み取れるかを自分の意見に反映させて新聞にまとめた。 できあがった新聞を、互いに共有し、同じ記事でも意見や考えが異なることを感じている様子が見られた。

（3）音楽科 「歌舞伎への理解を深める」

歌舞伎の学習において、日本の伝統音楽としての歌舞伎への理解を深めるための資料として、関連記事を掲示し情報収集の手段とした。

教科書や資料の内容に加え、奥深い歌舞伎の一端に触れ、演目が豊富なことや化粧や衣装に興味をもち、記事から知った情報を鑑賞の授業に生かし、表現の豊かさの手法の一つとして考えをまとめる生徒がみられた。 関連記事を掲示したことで、理解を深めることにつながった。

3　結果

ねらいである「各教科を通して、活動場面の工夫や言語活動の充実により、学習に主体的に取り組む態度を育む」という手立てとしての、新聞活用は、着実に進んでいる。 取組の当初調査で明らかになったことは、新聞をあまり読まない生徒が多いことであった。 理由として、新聞以外のツールで情報を得ることができることや新聞を身近に感じていないことが挙げられた。 そのために、活動場面の工夫の一つとして、折に触れ記事を紹介したり、記事をもとに自分の考えをまとめたりすることで新聞からの情報を身近に感じたり、関心をもつようになる様子がみられた。 記事の紹介をきっかけに、自分の考えを深めたり、自分とは異なる意見を知ったりしたとの声もあった。

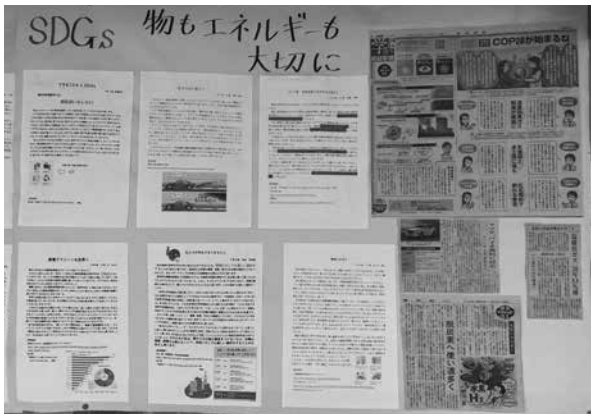
4　考察

生徒が新聞を手に取って読むことで、社会情勢や時事ニュース、経済関連の記事などのいろいろな情報に目を通すことができる。 このことは、幅広い知識や見識を得ることになり、新聞を読むことの良さや楽しさを感じられるようになる。 そのための方法として、教科で新聞活用の場面を意図的に設けた。 初期段階としては新聞の記事を発信することだったが、授業で取り入れることを通して、新聞に触れる場面を多く設定していくことは有効な活動につながると考える。

5　まとめ

新聞を身近に感じる機会を増やし、生徒が手に取りやすい場所に新聞を設置したり、情報を提示したりすることの積み重ねが大切であると感じた。

さらに活用の場面を増やし、効果的に新聞活用できる場を整えていきたい。



思考力・判断力・表現力の育成

～新聞を活用した主体的・協働的な学びを通して～

香取市立新島中学校　　松井　初美

１　はじめに

本校はＮＩＥ実践校３年目である。昨年度に引き続き、ＮＩＥ教育の推進を学校の研修の三本柱の一つとして位置づけている。３年目になると、ＮＩＥへの理解が深まり、新聞を活用することへの抵抗はなくなってきて、新聞が学校生活にあるのが当たり前のように感じている生徒や先生方も多い。１年目は先生方の理解があまり得られず、限られた先生方だけで実践を行っていたが、２年目、３年目と年を追うごとに「新聞が学校にあることは良いことだ」と感じる先生方が増え「新聞を使ってみよう」という雰囲気ができた。今年もいくつか新たな実践を行うことができた。

２　実践状況

（１）新聞コーナーの設置

昨年度同様、図書室に新聞を配架し、過去の新聞は資料として活用できるように、新聞社ごとにコンテナを用意し、ストックできるようにした。今年は、いろいろな学習でストックした新聞を活用している姿が見られた。特に家庭で新聞を購入していない生徒はそこから必要な記事を持っていき、情報収集を行っていた。

職員向けの記事の掲示は昨年度に引き続き行っている。毎日その記事を読んでいる方や、短学活の話題や道徳の学習材として活用している先生もいた。

（２）事前アンケート（R5.4）

①家庭での新聞購読状況

・購読している　　…４２％
・購読していない　　…５８％

②購読家庭での状況

・毎日読む　　…　０％
・時々読む　　…３２％
・ほとんど読まない　　…３２％
・全く読まない　　…３６％

③新聞を読むことは必要か?

・必要である　　…６０％
・必要でない　　…４０％

※購読していない生徒も回答。

【読む必要がある理由】

・新聞を読むとそのニュースや情報が記憶に残るし、わかりやすい。
・大事だと想ったところは切って残せる。
・詳しい情報がわかる。
・いろいろな情報を取り入れられる。
・文章を読むスピードが上がったり漢字が読めるようになったりする。
・文章が読めるようになる。
・読む力や理解する力がつく。
・ニュースは知っておいた方がよい。
・文章のまとめ方の参考になる。
・社会の最新情報に触れることができる。
・集中して読むことができる。
・世界情勢を知ることができる。
・テレビで聞き逃したニュースを新聞で読める。
・災害時に役立つ。
（電気がないときの情報源になる。）
・自分が知りたい情報を得られる。
・インターネットだと自分の興味があることしか見られないけれど、新聞は広い情報を知ることができる。

【読む必要がない理由】

・テレビやスマホで見ることができる。

・インターネットで調べればよい。

・いろいろな紙面を見るのが大変。

（３）授業での取り組み

①1年国語

「新聞活用の導入で新聞に関するクイズを出題」

※昨年度と同様なので、詳細は昨年度のＮＩＥ実践報告を参照。

②1年国語

メディアと表現

「新聞記事に見出しをつけよう」

記事の写真や見出しに注目し、記事と写真と見出しの関連性について考えさせた。 まず、新聞の仕組みについて理解を深める学習を行った。 紙面の種類や紙面構成を理解した後、気になる見出しや記事を選びスクラップした。 次に写真や記事に合った見出しを穴埋めのクイズ形式で考えさせ、最後に実際に記事に見出しをつけさせた。 記事と写真から得られる情報をもとに五七五調で小見出しを考えさせた。

③1年国語

「『蜘蛛の糸』のはがき新聞作成」

各自が選んだ登場人物にスポットを当て、各自でテーマを決めてはがき新聞を作成した。 インタビュー形式やイラストなどを取り入れ、それぞれが登場人物の心情に迫ることができた。 中には「蜘蛛」にスポットを当てて作成している生徒もいた。 ちょうど保護者の授業参観の時に完成したものを生徒同士だけではなく、保護者にも読んでもらいコメントを書いてもらった。 はがき新聞を作成することで作品を読み込むことと、自分の書きたいことを絞ることができた。

④1年国語

「ファミリーフォーカス」

※昨年度と同様なので、詳細は昨年度のＮＩＥ実践報告を参照。

⑤1、２年国語

「コラムの視写」

※昨年度と同様なので、詳細は昨年度のＮＩＥ実践報告を参照。

⑥3年国語

「新聞が伝える情報について考えよう」

教科書(教育出版)に「社説を比較する」という題材がある。昨年度までは実際の社説の読み比べを行っていたが、今年は中学生が読み比べるのに合った社説を見つけられなかったことと生徒の実態に応じて、同日の記事の読み比べを行った。

【使用した記事】

・「チャットGPT日本に拠点『加速』」
(朝日新聞朝刊)
・「生成ＡＩ可能性も課題も」
(毎日新聞朝刊)
・「著作権 大きな課題」(読売新聞朝刊)
・「ＡＩ間違い『責任感じる』」(千葉日報)
いずれも令和５年６月１３日に掲載された「ChatGPT」を開発したオープンＡＩのＣＥＯアルトマン氏の記事である。

4時間扱いで授業を展開した。

・１時：新聞が伝える情報の種類や情報の伝え方について理解する。
・２時：同日の同じニュース記事を読み、共通点や相違点を捉える。
・３時：意見交流し、なぜ違いがあるのかを考える。
・４時：ＡＩについての意見文を書く。

ＩＣＴ活用の一環としてTeamsから課題のワークシートを配布し共通点や相違点をまとめさせた。意見交流時にはその表に青色で友だちの意見を入力させた。意見交流をすることで自分では気付かなかったことを知る生徒もいた。まとめとして「ＡＩとどう向き合うか」という意見文を書かせた。メリットとリスクについて一人一人がしっかりと考えたことが意見文からうかがえた。

⑦1年総合

ＳＤＧｓの学習で新聞を活用した。使用したのは朝日新聞の「中高生のための朝日ＳＤＧｓジャーナル」vol.4。ＨＰから応募し、無料で生徒分がいただける。２、３面にＳＤＧｓについてがわかりやすく掲載され、世界でどのようなことが課題になっているかが図とともに書かれてあり導入として大変効果的に活用できた。特に2面の「ワークショップをやってみよう！」はどの先生も生徒も手軽に出来る学習活動である。生徒も興味・関心を持って取り組んでいる様子が見られた。またこの学習以前に家庭科の授業でもＳＤＧｓに触れていたので、教科等横断的な学習にもなった。

⑧1年総合

校外学習のまとめを学習新聞で行った。新聞の紙面構成や見出しの工夫など学習プリントで確認した後、信濃毎日新聞のＨＰからダウンロードした新聞台紙を活用し作成した。

(４)全校での取り組み

①道徳での活用

職員研修でＮＩＥのワークショップを行った。中学校は教科担任制なので全員でワークショップが出来るのは道徳と領域だけである。今回は道徳で使いたい記事を選び、内容項目に合った授業展開を考えた。学習指導要領で掲げられている「考え、議論する道徳」に新聞記事はマッチする。早速使って

みたいという意欲的な職員もいた。

実際の授業の一例を紹介する。

・「私はカウンセラー」

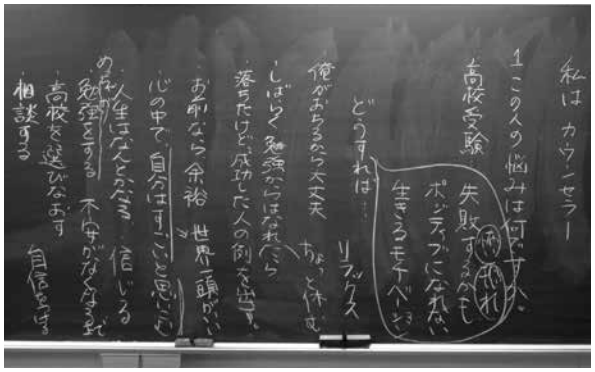
2024.1.23読売新聞「人生案内」使用。

・「災害から考えることは？」

2024.1.18読売新聞「阪神から能登へ『ともに』」使用。

・「校則はどうあるべきか」

2024.1.30読売新聞「ＮＩＥ投書編」使用。



②「いっしょに読もう！新聞コンクール」に応募

今年度も全校で「いっしょに読もう！新聞コンクール」に応募した。昨年度同様7月にコンクールの応募の仕方について説明し、夏休みの課題とした。新聞を購読していない家庭は学校で記事を選び用紙に貼付した。いろいろな新聞を手に取り記事を読んでいる姿が見られた。今年度は出品する前に全校分コピーをとり、文化祭にそれを展示した。今回は学区の小学６年生も招待したので保護者だけではなく、小学生も興味深く展示を見ている様子が見られた。また、学校奨励賞もいただくことができた。

③今年の１０大ニュースを考える

１２月に日本の１０大ニュース、海外の１０大ニュースの記事を読みながら考え、新聞社に応募した。昨年度までは国語科を中心に行っていたが、今年度は学級担任が学級の生徒と一緒に考えるという形にした。

④国語「コラムの読み比べ」

毎年元旦のコラムを読み比べる授業を行っている。今年度は全校で行ってみた。どの新聞も元旦のコラムは一年を見通してのテーマで書かれている。それを読んで気になるところや印象に残ったところに線を引き、コラムの見出しを考える。そしてどのコラムが一番元旦にふさわしいかを選び、その根拠も述べさせた。選ぶコラムは人それぞれだが、根拠をきちんと明確にして選んでいる様子がうかがえた。特に学年が上がるにつれ見出しの付け方が上手く、日頃コラムの視写で見出しを付ける学習をしている成果がでていると思われる。

３　成果と課題

○職員研修でＮＩＥのワークショップを行ったことにより、新聞を活用してみようとする職員の意識が芽生えた。

○学校全体で行う活動が増えた。特に「いっしょに読もう！新聞コンクール」の文化祭の展示はさまざまな記事に対する見方を知ることになり、考えを広げたり深めたりする場となった。

▲課題を出すと積極的に読む姿勢が見られるが、毎日の習慣として読む生徒は少ない。

▲教科によっては活用しにくいのでさらに研修を深める必要がある。

４　考察及びまとめ

実践校３年目となり、学校に新聞があることが普通で読みたいときにはすぐ読めるという環境に職員も生徒も慣れた。昨年度の活動を継続して行ったものがほとんどだったが、その中で工夫したり改善したりしてより効果的にＮＩＥの実践ができた。特に職員研修にワークショップを取り入れたことは大きかった。けれども教科や職員によって取り組みやすさが異なるので、細く長く継続して活動できるものを位置づけた方がよいと感じた。またＩＣＴ活用の推進によりタブレットが常に手元にあるため、調べたり読んだりするのをＳＮＳ等に頼りがちになる生徒が多い。タブレットのように手軽に新聞を手にとり読む習慣がつくような工夫を次年度はしていきたいと思う。

全校生徒一斉に取り組む「Kタイム」
～新聞記事による読解力の向上を目指して～

千葉市立貝塚中学校　　小林　瑞希

１　はじめに

本校は令和５年度よりＮＩＥ教育推進の指定校となり、今年度が実践一年目となる。

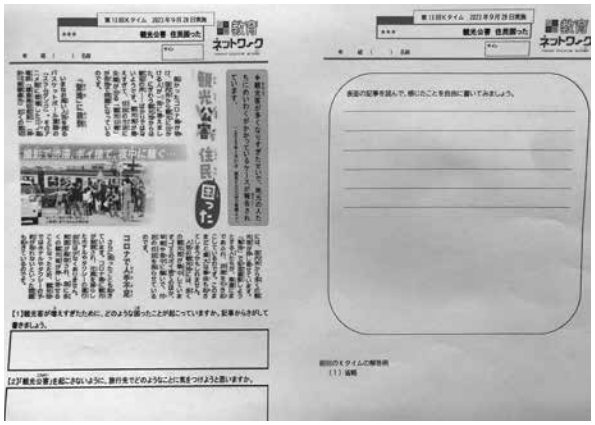
本校は毎年、学力向上を図るために研究を続けてきた。研究の中心として、とくに「読解力の向上」に重点を入れてきた。ＮＩＥ実践一年目ではあるが、これまで継続してきた新聞を使った取り組みも含めて報告していきたい。

２　実践状況

今年度実践した取り組みは以下の３つである。

（１）全校生徒一斉に取り組む「Ｋタイム」

本校では、毎週木曜日の朝読書の時間（10分間）に「Ｋタイム」と呼ばれる時間がある。読売新聞が発行しているワークシート付きの記事を読み、内容について解答し、自分なりの意見をできるだけたくさん記入するという取り組みである。担任の先生が生徒のワークシートをチェックし、自分の意見を記入する欄の内容が優れている生徒を各クラス２名選出し、昇降口や学年のフロアの掲示板にその生徒のワークシートを掲示をすることで意欲を高めている。このワークシートの配布等は学習委員会が行っており、ワークシートの答えは翌週のワークシートの裏面に記載されている。



（２）新聞記事掲示コーナーの設置

昇降口近くの多くの生徒が通る廊下の掲示板に「貝塚新聞」と題し、新聞記事の切り貼りを掲示している。定期的に掲示する新聞記事の内容を変えており、日本や世界の情勢、地域のニュース、中学生が関心をもちそうな記事を中心に掲示している。

（３）社会科の授業での新聞記事の活用

今年度は中３の社会科の授業において新聞記事を積極的に使用した。新聞を購読している生徒が少ないため、最近のニュースについて授業の前半に教師が話題にすることでニュースに関心をもたせたり、新聞記事を実際に読む時間をとったりすることで新聞に親しむことに力を入れた。３回の授業で行った実践は以下の通りである。

１時間目

はじめに、新聞に親しむことを目的に、一人一部新聞を配布した。興味のある記事を切り抜き、ノートに貼って感想を書かせた。（スポーツ関連でも可とした。）

2時間目

次に公民的分野の内容に沿うような政治・経済・国際社会に関する記事を選び、切り抜いてノートに貼って意見を書かせた。 自分なりに賛成・反対の意見を書くことで社会参画の意識を高めることが目的であった。

3時間目

次に自分が選んだ新聞記事について意見交流を行った。 他者の意見を聞くことで、自分の考えの幅を広げたり、ニュースをさらに深堀したいと思わせたりすることが目的である。

以上のような授業を行い、新聞に触れる機会を増やしていった。

3　成果

(1)について

全校一斉に行うことで読解力が学校全体で向上した。 全校での取り組み「Kタイム」を評価するため、千葉県標準学力検査の国語の結果を示す。令和3年と令和5年で比較をすると、読むことは8ポイント増加となっているので、読解力向上の取り組みの効果があったと考えることができる。

〔表1〕千葉県標準学力検査　国語　県との比較

国語	R3年3月	R4年3月	R5年3月
領域名	県比	県比	県比
読むこと	100%	110%	108%
全体	102%	104%	103%

また、学力向上に向けた取り組みに対する評価を行うため、3年生の実力テストの結果を以下に示す。「Kタイム」の影響の度合いがどこまであるか測ることは難しいが、本校の生徒の学力が向上していることが分かる。

〔表2〕実力テスト　県との比較

教科	国語	社会	数学	理科	英語
テスト	県比ポイント				
1号 (R5年6月)	0	-8	-4	-5	0
6号 (R6年2月)	+3	+3	-1	+2	+1

(2)について

移動教室や休み時間に興味のある新聞記事を見つけ、その記事について生徒同士で話をする場面が見られた。 また、授業内で新聞記事を触れていない学年でも、新聞に興味を持つことができた。

（３）について

年度末の授業で新聞に関する取り組みのアンケートを行った。

〇調査対象：中学３年生３クラス（計97名）
〇調査内容：
①新聞を読むことに慣れたか。
②新聞を読んで自分の意見をもつことができたか。

質問①結果

・慣れた	26名（25.2％）
・どちらかというと慣れた	57名（55.3％）
・どちらかというと慣れていない	11名（10.7％）
・慣れていない	3名（2.9％）

質問②結果

・できた	39名（37.8％）
・どちらかというとできた	51名（49.5％）
・どちらかというとできていない	2名（1.9％）
・できていない	5名（4.9％）

このように新聞記事を授業内で扱ったことで、新聞に親しみをもち、新聞を読むことへの抵抗感がなくなったと考えられる。 また、新聞を読んで自分の意見を持つことができた、と答えた生徒が多く、読解力の向上につながったことがうかがえる。

４　課題

（１）について

・１０分間という短い時間の中で生徒は一生懸命読解をしている様子が見られたが、中には裏面までたどり着かず、読解することに苦手意識をもつ生徒もいた。
・自分の意見を深いものにするよりも文字数を稼ごうとして薄い内容になっている生徒も見受けられた。
・優れた意見を書き、選ばれる生徒が固定化しつつあった。
・自分の意見を考えることに終始し、記事の内容について別の場面で触れたり、他の人と意見交換をしたりする活動はできなかった。

（２）について

・新聞の切り貼りがタイムリーではないものもあったが、すぐに更新ができなかった。
・じっくり立ち止まって読む生徒は少なかった。 記事について何かしらのアプローチができるようにしていきたい。 また、授業内でも新聞の掲示について話題にしていくべきであった。

（３）について

・授業内で新聞を扱うことで公民的分野の内容をより身近に感じられた一方、興味のある記事を選んだため、教科書の内容からは少しずれてしまうこともあった。
・中３のクラスのみが時間をとって新聞を読む時間をとった。 全学年で新聞に触れられる工夫や取り組みを今後考えていきたい。 中１から段階的に新聞を読解させることで、中３になった頃には新聞を抵抗感なく読み、批判的に記事を捉え、自分なりの考えを深めることができるようにしていきたい。
・意見を交流するのが同じグループのみとなってしまったので、クラス全体で共有できるような取り組みをしていきたい。
・一つの事件やについて何日分かの新聞を継続して読ませたり、一つの事件についていろいろな種類の新聞を読ませたりすることでその違いを感じさせたりする活動が取り入れられなかった。 メディアリテラシーをつけるためにも、また、新聞が毎日２紙届く利点を生かすためにも今後はそのような活動を取り入れていきたい。

５　まとめ

学校全体で新聞記事を読解する取り組みをすることで、新聞を読むことに慣れ、読解力の向上につながったため、今後も継続していきたい。併せて、授業内でどの学年でも新聞を活用し、親しみをもたせていきたい。

新聞記事を扱うには、我々教員も新聞を読み、教材研究に生かしていこうとすることが大切であると感じた。

来年度の取り組みがより一層充実するよう、努めていきたい。

新聞を活用した主体的・対話的な思考力の育成

松戸市立河原塚中学校　　鎌田　純子

1　はじめに

本校は、令和４年度からＮＩＥ推進校の指定を受けている。２年目となる今年度は、主体的・対話的に思考力を高められる新聞学習を目標とした。

初年度は、「SDGs活動」の一環とし、持続可能な社会の実現に向けた知識を得る学習活動を進めることができた。しかし、「意味調べ」や、意見交換を行う時間が少なく、情報共有を通じての理解の深まりに課題が残った。

今年度は、その点を考慮し、ＮＩＥにグループ活動を取り入れた。班員が互いに記事作成の意図について意見交換を行い、その感想を記入する欄を作った。そして、十分な時間を設定し、意見交換ができるよう配慮した。また、タブレットで分からない語句を調べ、記事を要約し、意見交換後に記事について、気が付いたことや分かったこと等の感想を記入する欄を作り、思考の深まりが見られる内容となるように設定した。

2　実践状況

(1)総合的な学習の時間

① ３段構成

上段：タイトル・記事貼付

中断：記事要約

下段：意見交換(班内)の感想

② テーマ：自由

動植物、スポーツ、政治、気候変動等から様々な記事を選ぶ。

③「総合的な学習の時間」評価

【 主体的な取組み 】

新聞学習を通して、興味関心を持った新聞記事をまとめ、社会現象について、主体的に学びを深めることができた。

④ 時間配分

1.テーマ探し―記事の切り抜き	1時間
2.要約文作成―語句の意味調べ	1時間
3.班活動―意見交換	1時間
4.感想書き―わかったこと気づき	1時間

(2)社会科選択学習

① ３段構成

上段：タイトル・記事貼付

中断：記事要約

下段：編集後記・感想

② テーマ：自由

③ 観点「主体的に学習に取り組む態度」評価

④ 期間：２学期

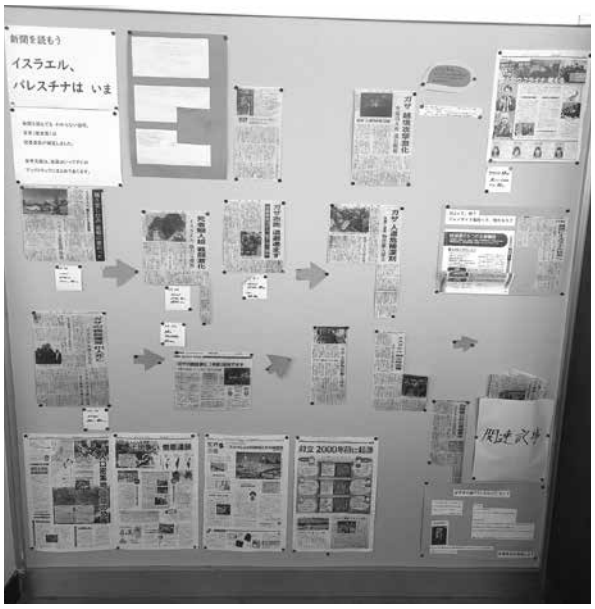
（３）図書館掲示物のＮＩＥ

本校図書館司書・川島三冬先生のご協力を得て実施。

① 紛争記事の切り抜き

② 図書委員会の生徒により、紛争の歴史や、その背景を説明し、掲示。

図書館の啓蒙活動とＮＩＥの連携。



３　結果からの考察

昨年度は、自ら見つけた関心ある記事を元に、新聞作成をすることができたが、知らない言葉を調べずに、記事を仕上げた生徒もおり、語彙の習得につながらない点が課題であった。 また、話し合い活動がなかったため情報共有できずに理解の深まりが得られなかった。 そのため、今年度は、話し合い活動を取り入れ、新聞作成の初期から、他の班員の意見を受けられたことにより、自分とは異なる視点を持つことがきた。 また複数で一つの記事を読むことで意見の広がりもあった。 同一内容の記事でも新聞社が変われば記事の掲載内容について、違った見方ができることに気が付く生徒もいた。

グループ内で、書かれている記事や自分の意見に対して、他の班員から質問を受け、答えることで、自身の知識不足がわかり、他の意見を吸収して見解を深めることができた生徒もいた。 記事を作成する中で社会的事象を具体的に把握し、そのことをさらに調べていく探究心が芽生えていたことについて、とても重要と感じた。

４　まとめ

新聞社の記事の一面の記事は各社取り上げるものが違うことがある。 また、仮に同じ内容の記事だったとしても、各社の考えに相違がある場合があり、様々な視点を持つことができる。 ここに教材としての利点があると考える。 教科書には一つの事象について様々な意見や主張が記載されることはほとんどない。

したがって、説明文の授業などでは、類似または関連した内容の文章を探して、比較読解の授業を展開することがある。 新聞を教材として考えると、何か一つ出来事があれば、複数の解釈を同時に数社の紙面で読むことができる。 記事の精査は必要だが、工夫により、さらに良い教材となり得る。 令和５年度は数多くのＮＩＥ実践ができた。 新聞作成を通じて読解力を養い、グループ活動ではコミュニケーション力や多様な考えに触れる良い機会となった。 通年を通して全校でＮＩＥの実践ができれば学力の向上につながると考えられる。

新聞を使って、現在の諸課題を考える

千葉県立土気高等学校　　酒井　将仁

１　はじめに

本校は昨年度より指定を受け、ＮＩＥを実践することとなり2年目となりました。 まず生徒が実際にどれくらい新聞を購読しているのかアンケートをとると、定期的に新聞を読む生徒は各クラス２名から３名程度であり、ほとんどの生徒は新聞を読まず、スマートフォンやテレビでニュースを見るとのことでした。 このことから、生徒にとって新聞は身近なものではなく、書いてある内容が難しいという印象を持つ生徒が多いと感じました。 今回は２年生の公共の授業で新聞を活用して授業を行いました。

２　実践状況（２年生）

（１）新聞を読んでみる

新聞を読むこと自体に苦手意識を持っている生徒が多くいたため、まずは新聞をどうやって読むかということを授業で扱いました。 新聞の見出しやリード文など新聞の構成を把握することで、新聞が実は読みやすくなるように様々な工夫がされていることを生徒は理解することができました。 そして1時間を使い、手に取った新聞の中から気になる記事を選択しました。 当時の話題であった、ガザ地区に関するニュースを中心に、様々なニュースを取り上げ、自分のワークシートにまとめました。

（２）新聞掲示コーナーの設置

また少しでも多くの生徒に新聞に対する興味をもってもらうために、昨年度と同様に図書室の脇に新聞を置いた棚を設置し、話題となっていたニュースの記事を掲示しました。 廊下を歩く生徒が時々足を止めて、記事を見ていたり、新聞を手に取ったりする姿も見られました。

（３）新聞記事からSDGsに関連する記事を探してみる。

３学期には2ヶ月間、計８社からの新聞を送っていただき、10月、11月の新聞記事を見て、ＳＤＧｓの17の目標のどれに関連するかを調べました。 どの生徒も様々な新聞を読み、現在どのような出来事、ニュースがあるのかを知ることができました。 また調べたことを生かして、現在の社会がどのような課題を抱えているのかを理解するきっかけになりました。

（４）調べ学習及び発表

様々な課題が現在の社会にはあることを理解することができたので、生徒たちは「現在の世界が抱える諸課題」というテーマで一人ずつ調べ学習を行い、調べたことをパワーポイントにまとめ、クラスの前で発表を行いました。 １人２分という短い時間のため、発表できる内容に限りはありましたが、どの生徒も自分が選んだテーマについてよく調べ、発表することができました。

【主な発表内容】

・貧困問題
・地球温暖化問題
・プラスチックごみ問題
・少子高齢化問題
・フードロス問題
・紛争、内戦問題　など

３　考察

生徒の多くは現在世界でどのような出来事が起きているのか知らない、または聞いたことはあるが詳しくは知らないという状況でした。

しかし新聞で様々なニュースを見ることによって、現在起きている様々な問題に対してより実感を持つことができただけではなく、教科書ではカバーしきれない専門的な知識も得ることができました。そしてそれを生かして、自らの調査、発表に生かすことができたと考えられます。

４　まとめ

アンケート結果によると授業前では新聞を普段から読む生徒は１クラス２、３名程度でしたが、授業後は半数の生徒が新聞に興味や関心を持ったと答えました。「テレビより詳しく情報が載っているため学びを深めることができる」や「知識が増えるだけではなく言葉の勉強にもなる」などの感想を残す生徒もおり、新聞を調べ学習などに活用する意義を実感できた生徒が多く見られました。

一方で新聞を読んでみて大変だった意見として「文字が多く、様々な情報から要約することが難しかった。」などがあり、たくさんある情報からどのように必要なものをまとめていくのか、また得た情報をどのように活用していくのかという力をいかにつけていくかということが今後の課題になると実感しました。

しかし、新聞を見て、そこから現在の社会の課題を探すという作業は生徒にとって新たな発見があったり、自分の知らない世界について知ったりするきっかけになったと思います。生徒の発表内容を見ると、まだ調べが不十分な点もあったり、難しい語句の意味などをよく分からず発表したりしている点もありましたが、生徒自身が主体的に課題を設定し、調べ考えていくという活動ができたと思います。

さらに今の生徒はインターネットで調べることがほとんどで新聞に触れる機会はなかなかないですが、新聞などのメディアを活用することで、より様々な角度から物事を捉えることができたと思います。今後も探究活動等においても様々なメディアを使っていきたいと考えています。

2023(令和５)年度ＮＩＥ実践校一覧

	学校名	校長名	実践代表者名	所在地	TEL／FAX	備考	
1	香取市立新島中学校	鈴木　康祐	松井　初美	〒287-0816 香取市佐原ハ4428	0478-56-0702 0478-50-3090	2021・2022・2023年度	継続
2	市川市立鬼高小学校	黒岩　大二	吉田美紗希	〒272-0015 市川市鬼高2-13-5	047-335-0304 047-335-0305	2022・2023年度	
3	香取市立佐原小学校	葛生　　毅	石井英理子	〒287-0003 香取市佐原イ1870	0478-52-2044 0478-54-7063	2022・2023年度	
4	船橋市立芝山東小学校	清水　晴子	鈴木　郁衣	〒274-0816 船橋市芝山3-19-1	047-464-3423 047-464-3424	2022・2023年度	
5	松戸市立河原塚中学校	石橋　　功	鎌田　純子	〒270-2254 松戸市河原塚190番地	047-391-6161 047-391-8669	2022・2023年度	
6	白井市立白井第一小学校	岩﨑　順子	久本　誠一	〒270-1431 白井市根105番地	047-492-0513 047-492-3006	2022・2023年度	
7	鴨川市立天津小湊小学校	谷　　智恵	佐久間大樹	〒299-5503 鴨川市天津1166	04-7094-0104 04-7094-0607	2022・2023年度	
8	横芝光町立日吉小学校	伊藤　玲子	石井　浩人	〒289-1701 山武郡横芝光町篠本5177	0479-85-1234 0479-85-1420	2022・2023年度	
9	千葉県立土気高等学校	齋藤　俊介	酒井　将仁	〒267-0067 千葉市緑区あすみが丘東2-24-1	043-294-0014 043-295-1863	2022・2023年度	
10	千葉市立磯辺第三小学校	岡田　直美	五十嵐裕一	〒261-0012 千葉市美浜区磯辺1-25-1	043-277-1021 043-279-4049	2022・2023年度	
11	千葉市立貝塚中学校	山口　鉄也	小林　瑞希	〒264-0020 千葉市若葉区貝塚1-7-1	043-231-7077 043-232-4937	2023・2024年度	新規
12	八千代市立大和田西小学校	島津　智恵	川上しずく	〒276-0046 八千代市大和田新田409番地3	047-450-2098 047-450-9743	2023・2024年度	
13	我孫子市立湖北小学校	長田　英一	園　　陽平	〒270-1122 我孫子市中里95	04-7188-1002 04-7188-3312	2023・2024年度	
14	匝瑳市立豊栄小学校	角田　直彦	岩田　啓佑	〒289-2147 匝瑳市飯倉1847	0479-72-0531 0479-70-1322	2023・2024年度	
15	御宿町立御宿中学校	吉田　　誠	石井　裕子	〒299-5103 夷隅郡御宿町新町68	0470-68-2101 0470-68-2813	2023・2024年度	
16	袖ケ浦市立中川小学校	粕谷　久恵	伊大知里枝	〒299-0236 袖ケ浦市横田2583番地	0438-75-2015 0438-75-6717	2023・2024年度	

2023（令和５）年度　千葉県ＮＩＥ推進協議会　役員

2023年7月14日　現在

会長	松井　聰	千葉大学教育学部教授
副会長	酒井昌史	千葉県小学校長会会長
副会長	日根野達也	千葉県中学校長会会長
副会長	佐藤晴光	千葉県高等学校長協会副会長
顧問	冨塚昌子	千葉県教育委員会教育長
顧問	鶴岡克彦	千葉市教育委員会教育長
幹事	中田邦明	千葉県小学校長会副会長
幹事	大矢孝之	千葉県中学校長会副会長
幹事	河野安勝	千葉県高等学校長協会監事
幹事	伊藤康弘	千葉県特別支援学校長会副会長
幹事	田中宏知	千葉県教育庁教育振興部学習指導課主幹兼義務教育指導室長
幹事	鈴木加奈子	千葉県教育庁教育振興部学習指導課指導主事
委員	佐々木　健	朝日新聞社　千葉総局長
委員	斎藤　浩	産経新聞社　千葉総局長
委員	安藤　淳	東京新聞社　千葉支局長
委員	佐藤大和	日本経済新聞社　千葉支局長
委員	鳥羽田継之	日刊工業新聞社　千葉支局長
委員	伊藤一郎	毎日新聞社　千葉支局長
委員	小布施祐一	読売新聞社　千葉支局長
委員	依田直哉	時事通信社　千葉支局長
委員	正村一朗	共同通信社　千葉支局長
委員	佐藤大介	千葉日報社　編集局長
監査	（原則、各新聞社による九社会幹事）	
アドバイザー	流　雄希	市川市立平田小学校教諭
アドバイザー	石川剛士	市川市立宮久保小学校教諭
アドバイザー	富永加代子	市川市立宮久保小学校非常勤講師
アドバイザー	武藤和彦	市川市立妙典中学校初任者指導教員
アドバイザー	松井初美	香取市立新島中学校教諭
アドバイザー	大塚功祐	千葉県立国府台高等学校教諭
アドバイザー	瀬和真一郎	松戸市立松戸高等学校教諭
アドバイザー	磯貝真規子	千葉県立佐原高等学校非常勤講師
アドバイザー	木村早苗	私立茂原北陵高等学校講師
事務局長	高橋行夫	千葉日報社読者サービス室長

２０２４(令和６)年度ＮＩＥ実践校一覧

	学校名	校長名	実践代表者名	所在地	TEL／FAX	備考	
1	我孫子市立湖北小学校	長田　英一	園　　陽平	〒270-1122 我孫子市中里95	04-7188-1002 04-7188-3312	2023・2024年度	継続
2	匝瑳市立豊栄小学校	角田　直彦	大木　　浩	〒289-2147 匝瑳市飯倉1847	0479-72-0531 0479-70-1322	2023・2024年度	
3	袖ケ浦市立中川小学校	庄司　光利	多田祥亜希	〒299-0236 袖ケ浦市横田2583	0438-75-2015 0438-75-6717	2023・2024年度	
4	八千代市立大和田西小学校	島津　智恵	川上しずく	〒276-0046 八千代市大和田新田40-3	047-450-2098 047-450-9743	2023・2024年度	
5	御宿町立御宿中学校	芝﨑　文太	石井　裕子	〒299-5103 夷隅郡御宿町新町68	0470-68-2101 0470-68-2813	2023・2024年度	
6	香取市立新島中学校	多田　雄一	松井　初美	〒287-0816 香取市佐原ハ4428	0478-56-0702 0478-50-3090	2021・2022・2023・2024年度	
7	千葉市立貝塚中学校	廣岡　徹彦	小林　瑞希	〒264-0020 千葉市若葉区貝塚1-7-1	043-231-7077 043-232-4937	2023・2024年度	
8	市川市立鶴指小学校	白石　恵介	竹内　光司	〒272-0025 市川市大和田4-11-1	047-379-3588 047-379-3589	2024・2025年度	新規
9	印西市立高花小学校	角鹿　智章	岩井　聡志	〒270-1342 印西市高花2-4	0476-46-6211 0476-46-6212	2024・2025年度	
10	鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校	飯塚　博文	島根　　渉	〒273-0124 鎌ケ谷市中央2-1-1	047-442-1105 047-442-1106	2024・2025年度	
11	千葉市立園生小学校	宇井　高一	大木保乃香	〒263-0043 千葉市稲毛区小仲台9-30-1	043-251-8149 043-284-4971	2024・2025年度	
12	市原市立菊間中学校	宮内　雅史	及川　幸子	〒290-0007 市原市菊間1850	0436-41-3618 0436-42-2667	2024・2025年度	
13	九十九里町立九十九里中学校	足立　康幸	伊藤　竜一	〒283-0104 山武郡九十九里町片貝1899-4	0475-76-4001 0475-76-7302	2024・2025年度	
14	芝浦工業大学柏中学高等学校	中根　正義	田巻　　慶	〒277-0033 柏市増尾700	04-7174-3100 04-7176-1741	2024・2025年度	
15	千葉県立松戸国際高等学校	飯生　政之	越川　涼太	〒270-2218 松戸市五香西5-6-1	047-386-0563 047-386-8518	2024・2025年度	

2024（令和６）年度　千葉県ＮＩＥ推進協議会　役員

2024年5月1日　現在

会長	松井　聰	千葉大学教育学部教授
副会長	中田邦明	千葉県小学校長会会長
副会長	榊原正策	千葉県中学校長会会長
副会長	草刈廣直	千葉県高等学校長協会副会長
顧問	冨塚昌子	千葉県教育委員会教育長
顧問	鶴岡克彦	千葉市教育委員会教育長
幹事	宮﨑晶子	千葉県小学校長会副会長
幹事	神子純一	千葉県中学校長会副会長
幹事	鈴木栄次	千葉県高等学校長協会監事
幹事	山﨑博志	千葉県特別支援学校長会副会長
幹事	大木　圭	千葉県教育庁教育振興部学習指導課主幹兼教育課程指導室長
幹事	鈴木加奈子	千葉県教育庁教育振興部学習指導課指導主事
委員	佐々木　健	朝日新聞社　千葉総局長
委員	白濱正三	産経新聞社　千葉総局長
委員	飯田克志	東京新聞社　千葉支局長
委員	佐藤大和	日本経済新聞社　千葉支局長
委員	鳥羽田継之	日刊工業新聞社　千葉支局長
委員	伊藤一郎	毎日新聞社　千葉支局長
委員	幸内　康	読売新聞社　千葉支局長
委員	小林　隆	時事通信社　千葉支局長
委員	正村一朗	共同通信社　千葉支局長
委員	佐藤大介	千葉日報社　編集局長
監査	（原則、各新聞社による九社会幹事）	
アドバイザー	石川剛士	市川市立宮久保小学校教諭
アドバイザー	磯貝真規子	千葉県立佐原高等学校非常勤講師
アドバイザー	大塚功祐	千葉県立国府台高等学校教諭
アドバイザー	瀬和真一郎	松戸市立松戸高等学校教諭
アドバイザー	富永加代子	市川市立宮久保小学校非常勤講師
アドバイザー	流　雄希	市川市立平田小学校教諭
アドバイザー	松井初美	香取市立新島中学校教諭
アドバイザー	武藤和彦	市川市立妙典中学校初任者指導教員
事務局長	高橋行夫	千葉日報社読者サービス室長

千葉県 NIE 推進協議会事務局
（千葉日報社内）
〒260-8628 千葉市中央区中央 4-14-10
TEL 043-227-4654（読者サービス室）
FAX 043-224-3662